特 71
976

軍隊内務書

朕軍隊內務書ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス

御名御璽

明治四十一年十二月一日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

明治
41 12 23
内交

特71
976

軍令陸第十七號

軍隊內務書

軍隊內務書目次

綱領……一頁
第一章　總則……十一
第二章　服從……十三
第三章　敬稱及稱呼……十五
第四章　聯隊長ノ職務……十九
第五章　大隊長ノ職務……二十三
第六章　中隊長ノ職務……二十七
第七章　聯隊本部諸官ノ職務……三十五
第八章　大隊本部諸官ノ職務……四十九
第九章　中隊附諸官ノ職務……五十一

軍隊內務書目次

綱領……一頁
第一章　總則……十一
第二章　服從……十三
第三章　敬稱及稱呼……十五
第四章　聯隊長ノ職務……十九
第五章　大隊長ノ職務……二十三
第六章　中隊長ノ職務……二十七
第七章　聯隊本部諸官ノ職務……三十五
第八章　大隊本部諸官ノ職務……四十九
第九章　中隊附諸官ノ職務……五十一

第十章　代理……六十五
第十一章　命令下達……六十七
第十二章　兵營及室內裝置……七十三
第十三章　委員……七十九
第十四章　工[illegible]場……八十三
第十五章　週番勤務……八十五
第十六章　火災豫防、消防及非常呼集……百七
第十七章　風紀衛兵……百十七
第十八章　營倉……百二十九
第十九章　當番卒及從卒……百三十一
第二十章　檢査……百三十七
第二十一章　起居及容儀……百四十一

第二十二章　休日及外出……百五十三
第二十三章　衛生……百六十五
第二十四章　馬ノ衛生……百七十七
第二十五章　厩……百八十七
第二十六章　炊事場及浴室……百九十九
第二十七章　命課布達……二百五
第二十八章　申告……二百九
第二十九章　入隊兵取扱……二百十三
第三十章　除隊兵取扱……二百十九
第三十一章　酒保……二百二十三
第三十二章　將校集會所及下士集會所……二百二十九
第三十三章　郵便物及電報取扱……二百三十一

第三十四章　報告……二百三十五
第三十五章　文書及帳簿……二百三十九
附則

特71
976

軍隊内務書

綱領

一　兵營ハ艱苦ヲ共ニシ生死ヲ同フスル軍人ノ家庭ニシテ其起居ノ間ニ於テ軍紀ニ慣熟セシメ軍人精神ヲ鍛錬セシムルヲ以テ主要ナル目的トス

軍人克ク其精神ヲ鍛錬ス故ニ身心ヲ君國ニ獻ケ職分ノ存スル所水火且辭セス義ヲ重ンシ節ヲ尙ヒ恥ヲ知リ名ヲ惜ミ死生ノ間ニ從容タリ此精神ヤ我國民ノ世世砥礪セシ所ノ精粹ニシテ國運ノ隆替戰爭

ノ勝敗一ニ其消長ニ繫ルモノトス是ヲ以テ上官ハ演習勤務等ノ際ハ勿論坐臥寢食ノ際ニ於テモ細心注意シ部下ヲシテ其鍛錬ニ餘念ナカラシムヘシ蓋シ精神教育ハ唯精神ヲ以テ教育スルヲ得ヘシ而テ其教育ノ任ニ膺ルモノヲ將校トス卽將校ハ軍人精神ノ淵源ニシテ一國元氣ノ樞軸ナリ其教育薫陶ニ依リ國軍ノ精神ヲ最高度ニ發揚スルコト必要ナリ」

軍紀ハ軍隊成立ノ大本ナリ故ニ軍隊ハ必ス常ニ軍紀ノ振作ヲ要ス將校ト下士卒トヲ問ハス時ト所トヲ論セス上官ノ命令ニ服從シ法規ヲ恪守シ熱誠以

テ軍務ニ努力ス之ヲ軍紀振作ノ實證トス而テ服從ハ軍紀ヲ維持スルノ要道タリ上官ト部下トノ間ニ於テ絕對ニ之ヲ勵行シ慣習遂ニ其性ヲ成スニ至ラシムルヲ要ス其他軍人一般ニ其階級及新古ノ順序ニ從ヒ服從ノ道ヲ守リ恭謙柔順以テ全軍ノ秩序ヲシテ整然タラシメサルヘカラス蓋シ服從ハ下級者ノ忠實ナル義務心ト崇高ナル德義心トニ依リ軍紀ノ必要ヲ覺知シタル觀念ニ基キ上官ノ正當ナル命令周到ナル監督及其感化力ト相待テ能ク其目的ヲ達シ衷心ヨリ出テテ形體ニ現レ遂ニ彈丸雨飛ノ間

ニ於テ甘シテ身命ヲ上官ニ致シ一意其指揮ニ從フニ至ルモノトス外形ノミノ服從ハ此際何等ノ價値ナキコトニ留意シ衷心誠實ニ之ヲ行ハシムルコトニ付テハ須臾モ懈ルコトアルヘカラス而テ其最良ナル方法ハ上官先ツ自ラ諸法則ヲ遵奉シ禮儀ヲ正クシ服從ノ道ヲ守リ以テ模範ヲ垂ルルニ在ルコトヲ忘ルヘカラス

二　各職員ノ勤務服行ニ付テハ事事軍隊設立ノ要義ト戰時ノ必要トニ稽ヘ獨立其責ニ任シ且相互ノ聯絡ヲ失ハスシテ迅速確實ニ事件ヲ處理シ苟モ澁滯アルヘカラス其命令ヲ下シ報告ヲ受ルハ定時ノ會報ニ於テシ事ノ輕易ナルモノハ稍長キモノト雖勉メテ筆記ヲ用ヒスシテ口演シ一タヒ復唱シテ之ヲ會得セハ武士ノ面目ニ懸ケ必ス之ヲ遂行スルノ習慣ヲ養フヘシ又迅速ニ諸命令ヲ傳達シ常ニ其實行ヲ監督シテ些少ト雖怠慢非違ヲ許サス部下ヲシテ上官ハ己レノ擁護者ナリトノ觀念ヲ懷カシムヘシ凡ソ諸規則ハ其多カランヨリハ單簡ニシテ服行ノ確實ナルヲ貴フヘシ又單簡正確ニシテ平易ナル言語ヲ用フルハ戰爭ニ於テ極メテ必要ナリ故ニ平時

ニ於テモ勤務間ハ勿論燕居ノ際ト雖此ノ軍人ノ言語ニ慣レシムルヲ要ス以上ハ平時事務執行ノ要訣タルノミナラス亦事務ヲ進捗セシムルノ捷徑ト爲ス[illegible]
上官ハ隊中ニ在ルト否トヲ論セス其言行總テ部下ノ儀表タラサルヘカラス故ニ上官ハ常ニ氣品ヲ高尙ニシ行狀ヲ端正ニシ其態度服裝ヲ正クシ篤貌ノ中自ラ威容ヲ存シ以テ部下ヲシテ己レヲ敬愛セシムルコト猶ホ幼兒ノ其嚴父ニ於ケルカ如クナラシムルヲ要ス就中下士ハ常ニ兵卒ト起居ヲ共ニスル

モノナルカ故ニ其言動ノ兵卒ニ感染スルコト最モ甚シキ所以ト百ノ訓誨ハ一ノ模範ニ如カサルコトヲ考ヘ克己堅忍深ク其躬行ヲ愼ミ兵卒ニ接スルニハ常ニ懇切公平ヲ旨トシ而モ其身分ノ尊嚴ヲ保チ以テ兵卒ヲシテ己レニ信頼セシムルコト猶ホ幼兒ノ其慈母ニ於ケルカ如クナラシムルヲ要ス
壯丁ノ始メテ入營スルヤ生活狀態ノ劇變ニ依リ頗ル其心性ヲ刺戟シテ鋭敏ナラシムルモノアリ故ニ上官ハ初メヨリ懇篤ニ之ヲ誘導シ漸次營內ノ起居ニ慣レシメ遂ニ兵營生活ハ一擧一動各規準スル所

アリテ苟モ放肆偸安ヲ許サス些少ノ怠慢過失モ必ス上官ノ矯正ト督責トヲ免レサルコトヲ悟ラシメ以テ自然ニ其品性ヲ謹嚴方正ナラシムルト同時ニ又諄諄之ヲ訓育シ明治十五年軍人ニ賜リタル勅諭ノ御趣意ヲ銘肝セシメ我國體ノ萬國ニ冠絶セル所以ト聖朝御歷代ノ高德トヲ講話シ兼テ古今忠勇義烈ノ事蹟ヲ述ヘ又諸規則典範類ヲ說明シテ近世戰鬪ノ性質ヲ知ラシメ以テ戰爭ノ勝利ハ軍人精神充溢シ軍紀克ク行ハレ協同一致ノ觀念熾ニシテ勇往邁進スル軍隊ニ歸スルモノナルコトヲ了解セシムヘシ

兵卒ハ一意專心上官ノ敎訓ヲ迎ヘ勅諭ノ御趣意ヲ遵奉シ命令規則ヲ嚴守シ諸勤務演習ニ勉勵シ兵器ヲ尊重シ馬ヲ愛護シ官物ノ取扱ヲ丁寧ニシ新參者ヲ慈ミ古參者ヲ敬ヒ蔭日向ナク內務ノ規定ヲ守リ上官ニ仕フルコト猶ホ父母ニ事フルカ如クシ衞生ヲ重ンシ筋骨ヲ鍛ヒ困苦缺乏ニ耐ヘ百折不撓ノ心ヲ養ヒ以テ軍人ノ面目ヲ完クスルコトヲ瞬時モ懈ルヘカラス

三　各級ノ上官及兵卒右ノ如ク各其分ヲ盡ストキハ

營內ノ生活ハ玆ニ大ナル一家庭ヲ成シ融融和樂ノ間ニ於テ全隊ノ一致團結ヲ鞏固ニシ士氣旺盛ニシテ軍務ニ勤勞シ上下相愛シ緩急相救ヒ有事ノ日欣然トシテ起チ國事ニ斃ルルヲ樂ムニ至ルヘシ是レ實ニ日本帝國軍隊ノ本領ニシテ
皇室ノ藩屛タリ國家ノ干城タル所以ノ道復此ニ外ナラサルナリ

第一章　總則

第一　本書ハ陸軍軍隊ノ內務ニ關スル事項ヲ規定シ各官ノ職責ヲ明ニスルモノナリ陸軍官衙、學校等ニ在リテモ亦之ヲ準用スヘキモノトス

第二　服從、敬稱及稱呼ニ關シテハ軍隊ニ附屬セサル軍人ト雖本書ノ規定ヲ守リ其他ハ其精神ニ從ヒ之ヲ準用スヘシ

第三　本書中聯隊長又ハ聯隊ヲ以テ示セルモノハ獨立(大、中)隊長又ハ獨立(大、中)隊ニ適用スルモノトス但シ特ニ明文アルモノハ此限ニアラス

又聯隊內ニ在ル大(中)隊長ノ職務中獨立隊長ニ適應スル

モノハ之ニ依ルヘキモノトス

第四　本書ノ施行ニ關シテハ軍隊ニ於テ妄ニ細則ヲ設クルコトヲ得ス若シ緊要已ムヲ得サル場合ニ於テハ聯隊長ハ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ムルコトヲ得

第五　師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ衞戍地、兵營、季候ノ關係若クハ一時ノ故障ニ依リ已ムヲ得サルトキハ本書ノ精神ニ戻ラサル限リ所要ノ規定ヲ定ムルコトヲ得然レトモ其事故止ムニ至レハ直ニ舊ニ復スヘシ

第二章　服從

第一　凡ソ部下タル者其上官ニ服從スルハ如何ナル場合ヲ問ハス必ス嚴重ナルヘシ
部下ニアラサル受命者ノ命令者ニ對スル場合モ亦同シ

第二　前條ノ關係ヲ有セサル上級者ト下級者トノ間ニ於テハ各、其本分、職務ニ妨ケナキ限リ常ニ服從ノ道ヲ守ルヘシ

第三　同級者ニ在リテハ各、其停年ノ新古ニ應シ服從ノ道ヲ守ルコト恰モ階級ノ上官ニ於ケルカ如クナルヘシ

第四　凡ソ命令ハ謹テ之ヲ守リ直ニ之ヲ行フヘシ決シテ其當不當ヲ論シ其原因、理由等ヲ尋ヌルコトヲ許サス然

レトモ其命令不明瞭ナルトキ徐ニ之ヲ尋ヌルハ妨ケナシ

新ニ受クル處ノ命令ト以前ノ命令ト齟齬スルトキハ其趣ヲ申述ヘ然ル後之ヲ行フヘシ

第五　犯行アリテ處分ヲ受クルトキハ假令不當ト思フトモ決シテ辯解スルコトナク必ス之ニ服從スヘシ又上級者ノ取扱假令不條理ト考フルモ決シテ之ヲ爭ヒ論スルコトヲ許サス但シ徐ニ順序ヲ經テ之ヲ訴フルハ妨ケナシ若シ勤務中ナレハ勤務終リテ後之ヲ訴フルモノトス

第六　服從ハ身分、階級ノ如何又ハ上下懸隔ノ大小ニ依テ嚴否ノ度ヲ異ニスルモノニアラス總テ本章ノ規定ニ從ヒ之ヲ守ルヘシ

第三章　敬稱及稱呼

第一　凡ソ下タル者上タル者ヲ呼フニハ直接ト間接トヲ問ハス必ス左ノ敬稱ヲ用フヘシ

天皇　太皇太后　皇太后　皇后ニハ　陛下

皇太子　皇太子妃　皇太孫　皇太孫妃　親王　親王妃　內親王　王　王妃　女王ニハ　殿下

將官同相當官ニハ　閣下

上長官以下ニハ　殿

第二　己レニ隷屬セラレタル皇族ニ對シ奉リテハ勤務上ニ於テハ敬稱ヲ省クヲ常トス例ヘハ某宮少佐、某宮中隊長ト呼フカ如シ

第三　他人ト談話中上級古參者ニ言及スルトキ亦敬稱ヲ用フヘシ然レトモ上官ニ對シ其人ヨリ下級者ヲ呼フニハ敬稱ヲ略スルコトヲ得勤務上ニ於テハ敬稱ヲ省クヲ常トス例ヘハ大隊長職務上ニ於テ聯隊長ノ命令ヲ達スルトキ聯隊長殿ノ命令ト云ハスシテ聯隊長ノ命令ト云フカ如シ

第四　下級者ヲ呼フニハ直接ト間接トヲ論セス其氏ト官(職)名トヲ用ヒ官職ナキ者ニ對シテハ其氏ト等級トヲ用フヘシ例ヘハ某大佐、某中隊長、某上等兵、某候補生等ノ如シ

場合ニ依リ單ニ官(職)又ハ勤務上ノ稱呼ノミヲ用ヒ又官職ナキ者ニ對シテハ單ニ氏ノミヲ呼フモ妨ケナシ例ヘ

ハ副官、曹長、當番等ノ如シ其他普通ノ稱ヘ方ヲ用ユルコトヲ得

第五　上級者ニ對シテ自己ヲ呼フニハ多クノ場合ニ於テ自分、私等ト云ハスシテ氏若クハ氏ト官(職)ヲ稱フルヲ良トス

第六　公文書ノ宛名ニハ身分、階級ノ如何ヲ問ハス殿ノ敬稱ヲ記スルモノトス

第四章　聯隊長ノ職務

第一　聯隊長ハ聯隊ヲ統率シ法規ノ定ムル所ニ從ヒ諸般ノ職務ヲ執行シ其責ニ任ス

第二　聯隊長ハ聯隊精神ノ中心ニシテ軍紀風紀ノ本源者タリ故ニ常ニ隊中軍紀風紀ノ振張及軍人精神ノ發揚ニ付テハ絶對ノ責任ヲ有スルモノトス

第三　聯隊長ハ部下將校ヲ拔擢シ將校同相當官以下ノ拔擢ニ關スル意見及賞罰ニ關スルコトヲ上申シ其配屬ヲ定メ職務ヲ課シ又委員ヲ任命ス

部下下士ノ任官、進級、免官、兵卒ノ降等及士官候補生、見習士官ノ免黜ハ師團長ノ認可ヲ受ケ士官候補生、一年志願

兵ノ進級任官ハ自ラ之ヲ行フ

又中隊ニ於ケル下士補充ヲ監督シ下士ノ再服役ヲ認可シ及之ヲ取消スコトヲ得

師團長ノ認可ヲ受ケ部下下士以下ノ兵役處分ヲ爲シ又懲治隊入ヲ命ス

第四　聯隊長ハ部下ノ軍人ニ二十八日以内ノ請願休暇、三日以内ノ慰勞休暇、二ケ月ニ一日ノ褒賞休暇ヲ與ヘ又三十日以内ノ謹愼營倉、六十日以内ノ禁足苦役ヲ命シ將校同相當官、准士官、下士ニ譴責ヲ命ス

第五　聯隊長ハ師團長ノ認可ヲ受ケテ當該兵科ノ士官勤務適任證書、及第證書、勤功章ヲ與ヘ又自ラ善行證書、伎倆證明書、當該兵科ノ下士適任證書、憲兵上等兵適任證書、卒業證書、國民軍幹部適任證書ヲ與フ

第六　聯隊長ハ所管ノ動員業務ヲ完備シ違算ナカラシムヘシ

第七　聯隊長ハ聯隊ノ教育訓練及馬ノ保育調敎ヲ司リ檢閲ヲ行フ

第八　聯隊長ハ將校團ノ家長トシテ將校敎育ノ責ニ任シ其團員ヲ誘導シ品性技能ヲ增進シ一致和熟ヲ圖リ將校團ノ本分ヲ全フシ名譽ヲ發揚スルコトヲ勉ムヘシ

聯隊ニ附屬スル將校相當官ニ對シテモ之ニ準シテ取扱ヒ其責務ヲ全フセシムルコトヲ期スヘシ

見習士官、士官候補生ハ將校團ニ列セシメ團員ノ子弟トシテ之ヲ敎導、誘掖スヘシ又聯隊ニ屬スル主計候補生、豫

備役後備役見習士官及現役豫備役後備役見習主計見習醫官見習藥劑官見習獸醫官ハ之ニ準シテ取扱フヘシ

第九　聯隊長ハ聯隊ノ會計經理ヲ司リ聯隊內經理ノ整理進歩ヲ圖リ委員並出納官吏ノ業務ヲ監督シ其施行ヲシテ正確適切ナラシムヘシ

第十　聯隊長ハ人馬ノ衛生ヲ司リ衛生思想ノ普及ヲ圖リ隊內ノ健康ヲ保チ傳染病豫防ニ關シ遺漏ナキコトヲ期スヘシ

第十一　聯隊長ハ兵器ニ關スル業務ヲ司リ其整理、保存ノ責ニ任ス

第十二　聯隊長ハ內務ノ實行ヲシテ確實ナラシムルノ責ニ任シ又部下ノ服裝ヲ監視ス

第五章　大隊長ノ職務

第一　大隊長ハ大隊ヲ統率シ軍紀風紀ヲ維持シ大隊ノ敎育訓練ニ任シ聯隊長ニ對シ其責ニ任ス

大隊長ハ聯隊長ノ旨ヲ承ケ經理、衛生、兵器、內務ノ事項ヲ管理監督ス

第二　大隊長ハ常ニ部下ノ士氣ヲ振起シ軍人精神ヲ發揚シ能ク規定ヲ守リ困苦缺乏ニ堪ヘ和熟一致ヲ旨トシ各、其職務ヲ盡サシムヘシ常ニ公明正直ニ部下ヲ取扱ヒ中隊長ヲ指揮スルニハ諸事中隊長ノ威權ヲ全フシ居常其命令ノ行ハルルコトニ注意スヘシ又部下ノ言行、勤怠及服裝ヲ監視シ其官職相當ノ威儀ヲ保タシムルコトニ注

意スヘシ

第三　大隊長ハ部下ニ職務ヲ課シ及大隊中ノ兵卒、馬ヲ此中隊ヨリ他ノ中隊ニ轉セシムルコトヲ得

第四　大隊長ハ部下ノ軍人ニ十四日以内ノ請願休暇、二日以内ノ慰勞休暇ヲ與ヘ士官准士官ニ譴責及十日以内ノ謹愼、下士ニ譴責及二十日以内ノ營倉四十日以内ノ禁足、兵卒ニ三十日以内ノ營倉六十日以内ノ禁足苦役ヲ命シ其他賞罰ニ關スルコトヲ上申ス

第五　大隊長ハ斷ヘス部下中隊ノ敎育訓練ヲ臨檢シ其齊一進歩ヲ圖ルコトニ付テハ全力ヲ盡シ其責ニ任スヘシ

第六　大隊長ハ將校團ノ家庭ニ於ケル先輩者トシテ後進者ヲ誘導シ其德操ヲ養ヒ人格ヲ高フスルコトヲ主トシ

學術ヲ練リ技能ヲ進ムルコトヲ勉メ以テ家長ノ子弟敎育ヲ直接幇助スヘキモノトス

第七　歩兵大隊長ハ糧秣委員ヲ指揮シ屢、炊事場等ヲ巡視シ軍隊炊事ノ目的ヲ達スルコトヲ勉ムヘシ

第八　大隊長ハ人馬ノ衞生ニ關スル規定ノ實行ヲ確實ナラシメ又其成績ヲ善良ナラシムル處置ヲ施シ時々衞生講話、身體檢査、馬ノ檢査ヲ行ハシムヘシ

第九　大隊長ハ部下中隊ノ内務ヲ監督シ兵舍、厩、倉庫等ヲ巡視シ兵器其他諸物品ノ保存及馬ノ管理ニ注意スヘシ

第六章　中隊長ノ職務

第一　中隊長ハ中隊ヲ統率シ軍紀風紀ヲ維持シ部下ノ教育訓練ノ責ニ任シ下士ノ補充ヲ圖リ上官ノ旨ヲ承ケ經理、衛生、兵器、馬、内務、服裝ニ關スル實務ヲ處理ス

第二　中隊ハ編制並教育ノ單位ニシテ下士以下ノ教育訓練ヲ成就シ徳育ヲ併進セシムル所トス中隊長ハ實ニ中隊ノ指揮官ニシテ又其師父タリ中隊附下士ハ其慈母タリ助教タルヘキモノトス而テ中隊長ハ中隊附士官ノ輔翼ニ依リ部下ヲシテ一致團結恰モ一家ノ如クナラシメ徳性ヲ陶冶シ學術技能ヲ練磨シ諸法則ヲ嚴守シ演習、勤務ニ勉勵シ困苦缺乏ニ堪ヘシメ堅忍不撓勇往斃而後止

ムノ氣性ヲ養フコトヲ勉ムヘシ

第三　中隊長ハ部下ヲシテ軍人ニ賜リタル勅諭ノ御趣意ヲ能ク服膺シ言行必ス之ヲ遵奉セシムヘシ其他諸種ノ手段ヲ盡クシ精神教育ニ從事シ心性ヲ改善向上シテ在營間忠良ノ軍人タリ歸鄉ノ上ハ軍人ノ本分ヲ忘レス又其職業ニ精勵スル淳朴ノ國民タル資性ヲ養ハシムルヲ要ス

第四　中隊長ハ部下兵卒ノ身分職業ヲ識別シ其行狀才能ヲ熟知シ各人ノ性質ニ應シテ懇切ニ誘導啓發シ賞罰ヲ正クシ部下ヲシテ喜テ其職務ニ從ハシムルコトヲ勉ムヘシ

第五　中隊長ハ部下ノ軍人ニ一日ノ慰勞休暇ヲ與ヘ將校

特務曹長ニ譴責、下士ニ譴責及十日以內ノ營倉二十日以內ノ禁足、兵卒ニ二十日以內ノ營倉四十日以內ノ禁足苦役ヲ命シ其他賞罰ニ關スルコトヲ上申ス

第六　中隊長ハ下士ヲ拔擢シ一等卒ヲ命シ又聯隊長ノ認可ヲ受ケ上等兵ヲ命ス

第七　中隊長ハ下士以下ニ必要ト認ムル日用品ノ所持ヲ許可スルコトヲ得

第八　中隊長ハ善良ナル下士候補者ヲ以テ下士ノ要員ヲ得ルコトヲ勉メ下士ノ身分ヲ愛護シ成ルヘク長ク麾下ニ服役セシムルコトヲ圖リ常ニ部下ニ對シ其威權ヲ保タシムルコトニ注意スヘシ

第九　中隊長ハ教育計畫ニ基キ教育日課ヲ定メ中隊附將

校下士ノ伎倆ヲ斟酌シテ適所ニ使用シ以テ學術兩科ノ進歩ヲ期スヘシ就中新兵敎育、新馬調敎ニハ特ニ意ヲ用キ自ラ之ニ任シ基本敎育ヲ確實完全ナラシムルコトヲ勉ムヘシ

第十　中隊長ハ中隊附士官、見習士官及士官候補生ニ對シ將校團ノ先輩トシテ公私共ニ密接ノ關係ヲ保チ進退應對ノ微ニ至ルマテ斷ヘス注意シ將校トシテノ智德ヲ成就スルコトヲ主トシ演習勤務ノ際ハ屢、單簡ナル問題ヲ出シテ實兵指揮ニ習熟セシメ又普通學外國語學ニ練習ノ時間ヲ與ヘ其發達ヲ促スヘシ總テ是等ニ付テハ其成績ヲ家長ニ報告シ斷ヘス其向上進歩ヲ激勵スルヲ要ス

第十一　中隊長ハ保管被服諸品ノ出納保存ヲ掌リ各人

ニハ其身體ニ適合スルモノヲ支給シ且之ヲシテ手入、補修、清潔ヲ全フセシムルコトヲ勉ムヘシ

第十二　中隊長ハ金錢物品ノ受渡ヲ確實ナラシメ常ニ兵舍、陣營具、練習用具等ノ清潔保存及消耗品ノ節約ヲ圖リ部下ヲシテ官物ヲ大切ニスルノ精神ヲ養成セシムヘシ

中隊長ハ被服、兵器其他金錢物品ノ受渡ニ立會ヒ又其破損、修理、交換等ノ際ハ勉メテ自ラ檢査スヘシ

第十三　中隊長ハ部下ヲシテ人馬ノ衛生ニ關スル規定ヲ確實ニ行ハシメ常ニ周密ノ注意ヲ與ヘ身體ノ鍛錬ト馬ノ持久力トニ注意シ患者病馬ノ種類原因ヲ調査シテ豫防ノ手段ヲ盡シ就中外傷、花柳病及傳染病等ノ豫防ニ付テハ遺漏ナキコトヲ期スヘシ

第十四　中隊長ハ部下ノ兵器尊重心ヲ養ヒ愛馬心ヲ喚起シ保管兵器ノ整理保存及馬ノ保育ニ任シ常ニ戰爭ノ用ニ堪ヘシムルコトヲ勉ムヘシ

第十五　中隊長ハ部下ヲシテ金錢物品ヲ濫費セシメサルコトニ注意シ質素儉約ノ風ヲ養成スヘシ之カ爲下士ニハ適當ノ方法ヲ設ケ貯金ヲ奬勵シ兵卒ニハ妄ニ其父兄等ニ金錢ヲ請求スルコトナカラシムヘシ

貯金通帳ハ本人ノ希望ニ依リ中隊長之ヲ保管スルコトヲ得

第十六　中隊長ハ時々兵卒ノ父兄若クハ當該地方官公吏ト連繫ヲ保チ其家庭ノ情況ヲ詳ニシ以テ兵卒訓育ノ資料ニ供スルヲ要ス

第十七　中隊長ハ中隊家庭ノ一致和親ヲ保ツコトニ付テハ全責任ヲ有ス之カ爲斷ヘス幹部ト兵卒ノ關係並同僚間ノ交情ニ注意シ言行常ニ温和誠實ヲ旨トシ決シテ冷酷粗暴ノ振舞ナカラシメ就中古參兵ノ新參兵ニ對スル動作ニ配慮シ兩者ノ折合ヲ圖リ假令犯罪犯行アル者ト雖恣ニ糺問シ若クハ侮辱擯斥スルコトナカラシメ以テ常ニ隊中ノ圓滿和熟ヲ期スヘシ

第十八　中隊長ハ己レ自ラ又ハ部下ヲシテ時々入院患者ヲ見舞ヒ監獄ニ拘禁セラレタル者アルトキハ之ニ面會シ改悛セシムルコトヲ圖ルヘシ

第十九　中隊長ハ常ニ部下ノ服裝ヲシテ規則ニ合シ清潔端正且齊一ナラシメ以テ其隊軍紀ノ振張ヲ表明スル

ヲ要ス之カ爲ニハ先ツ將校下士ノ服裝ニ注意シ之ヲ儀表トシテ兵卒ヲ戒飭シ斷ヘス監視矯正シ軍服著用ノ名譽ヲ發揮セシムルコトヲ勉ムヘシ

第二十　中隊長ハ内務、衛生、給養其他諸法則ノ實施ヲ確實且容易ナラシムルカ爲中隊兵舍及厩ノ構造ヲ顧慮シ若干ノ内務班ヲ設ケ下士以下及馬ヲ分屬ス内務班ニハ番號ヲ附シ班中高級古參ノ下士（曹長ヲ除ク）ヲ以テ班長トス

給與ノ爲聯、大隊本部附下士ハ聯、大隊長ノ指定スル中隊ニ分屬スルモノトス

第七章　聯隊本部諸官ノ職務

第一　聯隊本部ノ諸官ハ聯隊長ノ命ヲ承ケ各、分掌ノ職務ニ從事シ聯隊長ニ對シ其責ニ任ス

第二　聯隊副官ハ聯隊本部事務整理ノ責ニ任シ又聯隊本部ノ取締ニ任ス

聯隊副官ハ本部附書記ニ事務ノ分擔ヲ命シ又本部附下士ニ必要ト認ムル日用品ノ所持ヲ許スコトヲ得

聯隊副官日常ノ勤務概ネ左ノ如シ

一、命令諸達ノ受領傳達、通報、報告其他諸文書ノ受領發送ニ任スヘシ總テ此等ハ能ク法規ニ照シテ調査シ迅速確實ニ取扱フヘキモノトス

二　輕易ノ事項ニシテ恒例アルモノハ自ラ之ヲ取扱ヒ其他ハ聯隊長ノ決裁ヲ請ヒ之ヲ扱フヘキモノトス但シ自ラ取扱ヒシ事項ニシテ必要ト認ムルモノハ便宜聯隊長ニ報告スヘシ

三　日々隊外ヨリ到來ノ文書及大、中隊又ハ委員等ヨリ進達ノ文書ヲ點檢シ之ニ對スル案ヲ立テ共ニ聯隊長ニ差出スヘシ

聯隊長閲覽決裁濟ノ文書類ニハ認證ヲ受ケ自ラ取扱フヘキモノハ之ヲ處分シ其特種事務ニ屬スルモノハ主任者ニ移シ其他ハ書記ヲシテ取扱ハシムヘシ

四　隊外ニ發送ヲ要スル文書ハ聯隊長ノ一閲ヲ經テ其取扱ヲ爲シ又下達ヲ要スルモノハ一般ニ關スルモノ

ト一部ニ關スルモノト會報ノ時ニ達スヘキモノト至急ヲ要スルモノトニ區別シ第十一章ノ規定ニ依リ取扱フヘシ

五　聯隊歴史ヲ起草シ聯隊長ノ校閲ヲ受クヘシ

六　指定セラレタル軍事機密及秘密圖書ヲ保管シ愼重ノ取扱ヲ爲シ其出納ヲ明ニスヘシ

七　鐵道乘車證、乘船證、郵便切手、葉書、公用證、外出證及門鑑、印章ヲ保管シ其出納ヲ明ニスヘシ

門鑑ノ大サ形狀ハ聯隊ニ於テ之ヲ定メ一連ノ番號ヲ附スルモノトス

八　聯隊週番、衛戍其他ノ勤務ニ服スヘキ人名、人員及部隊ハ聯隊長ノ認可ヲ受ケ豫メ之ヲ傳達スヘシ

九　本部ニ屬スル兵舍、陣營具等ノ清潔保存ニ任シ消耗品ノ節約ヲ圖ルヘシ

十　本部ノ當番卒ヲ指揮シ其勤務ヲ規定スヘシ

十一　本部ノ將校同相當官以下ニシテ刑法其他ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ其官等、氏名、處刑、處罰ノ種類、刑期又ハ日數ヲ必要ナル關係諸官ニ通報シ其營倉入ヲ命セラレタル者ハ之ヲ風紀衛兵司令ニ引渡スヘシ

十二　本部附下士公務又ハ修學等ノ爲延燈ヲ願出ル者アルトキハ其事情ヲ糺シ時限ヲ定メテ之ヲ許シ覺紙ヲ以テ週番大尉ニ通報スヘシ

十三　隊中一般ノ事務進捗ヲ圖ル爲必要ニ應シ大隊副官又ハ所要ノ諸官ヲ會同シ事務ノ打合セヲ爲スコトヲ得

十四　用事ノ爲來營スル者アルトキハ自ラ之ニ應接シ又ハ關係諸官ヲシテ之ニ應接セシメ諸事便宜ヲ與フルコトニ注意スヘシ

第三　本部附書記ハ副官ノ命ヲ承ケ各、分擔ノ事務ニ服ス其日常ノ勤務概ネ左ノ如シ

一　自己分擔ノ事務ハ總テ規定ニ依リテ取扱ヒ他ノ分擔者ノ執務ノ大要ヲ承知シ相互ノ連繫ヲ保チ諸事遺漏過誤ナキコトヲ期シ事務ノ進捗ト確實トニ付テハ聯隊副官ニ對シ其責ニ任スルモノトス

二　日々隊外ヨリ到來ノ文書及大、中隊又ハ委員等ヨリ進達ノ文書ハ規定ノ手續ニ從ヒ帳簿ニ記入シ副官ニ

差出スヘシ

二 處分濟ノ書類ヲ副官ヨリ下附セラレタルトキハ部類毎ニ綴リ置クヘシ

三 發送スヘキ文書ハ副官ノ命ニ依リ清寫シ校正ノ上副官ニ差出シ其命ニ依リ發送ノ手續ヲ爲シ其控ハ部類毎ニ綴リ置クヘシ

四 聯隊本部日報ヲ作リ大隊ヨリ進達セル日報ト共ニ副官ニ差出スヘシ

五 諸文書ノ保存格納ヲ掌リ又法令書類ノ訂正加除ニ任スヘシ

六 聯隊本部內ノ陣營具練習用具其他諸物品ノ請求受授監視ニ任スヘシ

七 本部當番卒ノ勤惰ヲ監視シ各室及諸物品ノ清潔保存ニ注意シ殊ニ火元取締ニ任シ又電話器ノ使用保存ヲ監督スヘシ

八 聯隊長及本部ノ將校不在ノ場合ニ於テ委任外ニ屬スル事件生シタルトキハ週番大尉ノ指圖ヲ請フヘシ

第四 聯隊本部ノ佐尉官ハ聯隊長ノ命ヲ承ケ教育、兵器經理其他諸般ノ事項ヲ分擔ス

教育ノ分擔ヲ命セラレタル者ハ將校團長ノ補助者トシテ將校教育ノ一部ヲ擔當シ又特種教育要スレハ下士ノ特別教育ニ任ス勤務演習召集者ノ教育ハ通常聯隊附古參佐官之ヲ擔當スルモノトス

第五 聯隊本部附佐尉官中高級古參ノ者ハ團內家庭ノ慈

母ヲ以テ自ラ任シ團員ヲ提撕シ其融和一致ヲ圖ルヘキモノトス其他ノ將校ニ在リテモ全力ヲ竭シ將校團ノ名譽ヲ揚クルコトヲ勉ムヘシ

第六　旗手ハ軍旗ヲ捧持シ之ヲ守護スルヲ以テ任トス又聯隊副官ノ指圖ヲ受ケ本部用圖書ノ監守、圖書類ノ印刷分配ノ事ヲ掌リ聯隊本部ニ於ケル建物ノ保存ニ注意シ修繕等ヲ要スルモノアルトキハ營繕委員ニ申立テ又聯隊副官ノ事務繁劇ナルトキハ之ヲ補助ス

旗手ノ在ラサル隊ニ在リテハ前項ノ事務ハ聯隊副官之ヲ擔當ス

第七　武器主管ハ火工掛下士及砲兵諸工長ヲ指揮シ兵器ノ整理ニ任ス

輜重兵大隊ノ材料主管ハ器械掛下士及砲兵諸工長ヲ指揮シ兵器、器具、材料ノ整理ニ任ス

氣球隊ノ瓦斯工場掛兼材料掛大尉ハ當該下士及上等工長ヲ指揮シ瓦斯工場ニ關スル業務ヲ掌リ且材料ノ整理ニ任ス

第八　鐵道聯隊及電信大隊ノ材料廠長ハ隊長ノ命ヲ承ケ廠附將校以下ヲ指揮シ廠內ノ業務ヲ掌リ器具、材料ノ整理ニ任ス

廠附將校ハ廠長又ハ主任將校ノ命ヲ承ケ業務ヲ分擔ス

第九　騎兵野砲兵聯隊其他獨立(大、中)隊ノ主計ハ會計經理ノ事務ニ服シ尙高級主計ハ聯隊長ノ命ニ依リ出納官吏ト爲リ又次級主計以下ノ業務ヲ監督ス

歩兵重砲兵及鐵道聯隊ノ高級主計ハ聯隊長ノ命ヲ承ケ聯隊本部ニ於ケル會計經理ノ事務ヲ秉掌シ出納官吏ト爲リ又大隊附主計以下ノ業務ヲ監督ス

次級主計ハ高級主計ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

計手ハ主計ノ命ヲ承ケ計算、記簿及會計經理ニ關スル細務ニ服ス

第十　軍醫正ハ衛生事務ニ服シ擔架術ノ教育ヲ監督シ見習醫官軍醫生看護長以下ノ教育ヲ司リ軍醫以下ノ業務ヲ監督ス

軍醫正ノ屬セサル隊ニ在リテハ高級軍醫ハ次級軍醫以下ノ業務ヲ監督シ前項ノ職務ヲ執行ス

次級軍醫ハ高級軍醫ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

看護長ハ軍醫ノ命ヲ承ケ患者ノ看護ヲ擔任シ治療、調劑ヲ補助シ上等看護卒ノ勤務ヲ監視シ及衛生ニ關スル細務ニ服ス

第十一　獸醫ハ馬ノ衛生事務ニ服シ裝蹄、剔毛ノ業務、見習獸醫官獸醫生及蹄鐵工長以下ノ教育ヲ司リ尚高級獸醫ハ次級獸醫以下ノ業務ヲ監督ス但シ重砲兵聯隊ノ高級獸醫ハ聯隊長ノ命ヲ承ケ聯隊本部ニ於ケル馬ノ衛生事務ヲ秉掌シ又大隊附獸醫以下ノ業務ヲ監督ス

次級獸醫ハ高級獸醫ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

蹄鐵工長ハ獸醫ノ命ヲ承ケ工業ヲ監督シ作業品及諸物品ヲ監守シ工卒ノ教育ヲ補助シ工場ノ取締ニ任シ且自ラ工業ニ從事シ治療、調劑ヲ補助シ病馬ノ看護ヲ擔任シ

裝蹄、剔毛其他馬ノ衛生ニ關スル細務ニ服ス

第十二　喇叭長ハ聯隊副官ノ監督ヲ受ケ喇叭手ノ教育ニ任シ喇叭ノ節調ヲ齊一ニスルコトヲ圖リ又聯隊副官ノ命ヲ承ケ本部ノ事務ニ服ス

第十三　縫、靴工長ハ經理委員ノ命ヲ承ケ工場內ノ作業ヲ監督シ作業品及諸物品ヲ監守シ縫、靴工卒ノ教育ヲ補助シ工場ノ取締ニ任シ且自ラ工業ニ從事シ被服經理ニ關スル細務ニ服ス

第十四　炊事掛下士ハ經理委員又ハ糧秣委員ノ命ヲ承ケ食物ノ調理及糧秣經理ニ關スル細務ニ服ス

第十五　火工掛武器掛器械掛木、鍛工掛下士、砲兵諸工長、工兵上等工長、瓦斯工場掛下士上等工長ハ兵器委員又ハ

當該主任將校ノ命ヲ承ケ火工掛下士ハ專ラ彈藥ノ調製配與保全ニ任シ武器掛器械掛下士ハ兵器器具、材料ノ整理並受渡ニ關スル細務ニ從事シ木、鍛工掛下士、砲兵諸工長、工兵上等工長ハ各、分擔ノ工業ヲ監督シ作業品及諸物品ヲ監守シ工卒ノ教育ヲ補助シ工場ノ取締ニ任シ且自ラ工業ニ從事シ分擔ノ兵器、器具、材料ノ保存手入並兵器經理其他擔任業務ニ關スル細務ニ服シ瓦斯工場掛下士上等工長ハ材料ノ整理瓦斯工場ニ關スル細務ニ從事ス

第十六　電信大隊ノ輸送掛下士ハ主任將校ノ命ヲ承ケ主トシテ輸送ニ關スル業務ニ服ス

第十七　氣球隊ノ電話通信掛下士ハ主任將校ノ命ヲ承ケ主トシテ電話通信ニ關スル業務ニ服ス

第八章　大隊本部諸官ノ職務

第一　大隊本部附諸官ハ大隊長ノ命ヲ承ケ各〻分掌ノ職務ニ從事シ大隊長ニ對シ其責ニ任ス

第二　大隊副官ハ大隊本部事務整理ノ責ニ任シ大隊本部ノ取締ヲ爲シ又大隊本部ニ於ケル建物ノ保存ニ注意シ修繕等ヲ要スルモノアルトキハ營繕委員ニ申立テ其他聯隊副官ノ爲規定シタルモノニ準シ大隊本部ノ事務ヲ處理スヘシ

大隊書記ハ大隊副官ノ命ヲ承ケ聯隊書記ノ爲規定シタルモノニ準シ事務ニ服スヘシ

第三　主計ハ大隊ニ於ケル會計經理ノ事務ニ服ス

計手ハ主計ノ命ヲ承ケ計算、記簿及會計經理ノ細務ニ服ス

第四　高級軍醫ハ大隊ノ衛生業務ニ服シ次級軍醫以下ノ業務ヲ指圖ス但シ衛生業務ニ關シテハ軍醫正ノ監督ヲ受クルモノトス

次級軍醫及看護長ノ職務ハ第七章第十ノ規定ニ同シ

第五　獸醫、分課下士及工長ノ職務ハ第七章第十一第十四第十五ノ規定ニ同シ

第六　大隊喇叭長ハ大隊副官ノ監督ヲ受ケ喇叭手ノ教育ニ任シ又大隊副官ノ命ヲ承ケ本部ノ事務ニ服ス

第九章　中隊附諸官ノ職務

第一　中隊内ノ業務ハ總テ中隊長ノ主宰スル所ニシテ中隊附中少尉及特務曹長以下ハ隨時中隊長ノ命ヲ承ケテ任務ニ服シ中隊長ニ對シ其責ニ任スルヲ本則トスト雖日常準據スヘキ職務ノ大要ハ概ネ左ノ如シ

第二　中隊附中少尉ハ中隊長ノ分身者トシテ中隊長ヲ輔翼シ其命令意圖ヲ隊中ニ徹底セシムルヲ任トス之カ爲ニハ自ラ中隊ノ儀表ト爲リ先ツ特務曹長以下中隊ノ幹部ヲシテ一致和親忠實ニ勤務セシメ又下士ノ職權ヲ保護シ兵卒ニ對シテ能ク其命令ノ行ハルルコトニ注意シ且兵卒ノ性質、技能、經歷ヲ熟知シ斷ヘス其言行ヲ監視シ

中隊長ノ有形無形ノ教育ヲ幇助シ其目的ヲ達セシムルコトニ全力ヲ盡スヘシ

乘馬隊ニ在リテハ馬ノ性質體力ヲ識別シ且手入、飼方、取扱、裝蹄ニ注意スヘシ

第三　特務曹長ハ中隊下士ノ先達者ト爲リ常ニ其一致親睦ヲ圖リ之ヲシテ其品格ヲ高メ技能ヲ練リ能ク法則ヲ守リ演習、勤務ニ勉勵シ篤實以テ中隊ノ慈母タリ助教タルノ責務ヲ盡サシムルコトニ付テハ身ヲ以テ之ヲ誘導シ又兵卒ノ性質、行狀、技能、入隊前ノ履歷、家庭ノ狀況及兵舍內ニ於ケル起居ノ有樣ヲ詳ニシ以テ精神修養學術教育ノ資料ニ供スヘシ

又兵卒ノ父兄及當該地方官公吏ト中隊トノ連繫事務ニ

任シ是等ノ者來營スルトキハ親切ニ應接シ其希望ヲ聞キ營內ノ狀態、本人ノ行狀勤惰等ヲ告ケ彼是意思ノ疏通ヲ圖ルヘシ

第四　特務曹長ハ每日數回兵舍及厩等ヲ巡視シ常ニ諸規定ノ確實ニ行ハルルコトヲ勉メ又給與諸品ノ整頓手入保存ノ行屆クコトニ注意シ常ニ內務班長ヲ教導誘掖シ其職務ノ完全ニ行ハルルコトヲ圖ルヘシ

乘馬隊ニ在リテハ馬ノ性質體力ヲ識別シ且手入、飼方取扱、裝蹄ニ注意シ異飼ノ馬ニ付テハ特ニ其實行ヲ監視スヘシ

第五　特務曹長ハ中隊長ノ指圖ヲ受ケ教育ノ關係ヲ顧慮シ下士、兵卒、馬ノ勤務割ヲ爲シ週番下士ヲシテ傳達セシ

ムヘシ

第六 特務曹長ハ教育及人事ニ關スル事務ノ取扱ニ任シ又其文書圖書ノ整理保存ヲ掌ルヘシ

第七 特務曹長ハ下士以下懲罰處分ヲ受クル者アルトキハ之ヲ中隊長ノ許ニ連レ行キ申渡ヲ受ケシメ其旨ヲ週番士官其他關係諸官ニ通スヘシ懲罰處分ヲ申渡サルルトキハ受罰者ノ上級者若クハ同級者ヲ陪列セシムルヲ例トス

營倉入ノ者アルトキハ罰目、日數、隊號、官等級、氏名ヲ記シタル覺紙ヲ以テ週番大尉ニ報告シ週番下士ヲシテ本人ヲ風紀衞兵司令ニ交付セシムヘシ

第八 曹長ハ命令ノ受領及傳達ニ任シ其普及ヲ以テ責任

トス又特務曹長擔任外ノ庶務、日報ノ調製及經理事務ニ服シ文書ノ整理保存ヲ掌ルヘシ

第九 曹長ハ中隊倉庫ノ監守及兵器、練習用具、演習材料、被服、陣營具、消耗品其他諸物品ノ出納保管ニ任シ又中隊ニ於ケル建物ノ保存ニ注意シ修繕等ヲ要スルモノアルトキハ營繕委員ニ申立ツヘシ

前項諸物品ノ請求、受領、修理、交換、返納若クハ買入ニ關シテハ各、其傳票ニ中隊長ノ認證ヲ受ケ之ヲ取扱ヒ帳簿ニ記載シ其出納ヲ明ニスヘシ

金錢給與ハ中隊長立會ヒノ上曹長自ラ之ヲ爲スヘシ若シ支給ヲ受クヘキモノ一時不在ナルトキハ中隊長ノ指圖ヲ請フヘシ

第十　曹長ハ下士以下ノ軍隊手牒ヲ預リ置キ必要ノ時内務班長ノ請求ニ應シ之ヲ交付スヘシ

第十一　特務曹長及曹長ハ事務繁劇ノトキハ中隊長ノ許可ヲ受ケ下士又ハ上等兵ヲ助手ト爲スコトヲ得

第十二　重砲兵隊ノ火工掛下士ハ彈藥ノ請求出納及其記牒ニ任ス

第十三　内務班長ノ職務ハ多般ナリト雖其大概ヲ列記スルコト左ノ如シ

一　班長ハ班内ノ儀表ト爲リ班員ヲシテ　勅諭ノ御趣意ヲ心肝ニ銘シ言行必ス之ヲ遵奉セシムヘシ又上等兵ヲ教導誘掖シテ其職務ヲ行ヒ易カラシメ古參兵ト新參兵トノ間柄ニ注意シ相互友悌ノ道ヲ盡シ和睦一致軍隊生活ヲ樂ムノ心ヲ盛ナラシメ意思ヲ堅確ニシ又諸規定ヲ嚴守シ演習、勤務ニ勉勵セシムヘシ是則品性ヲ謹嚴ニシ勞苦ニ耐ヘ勤勉ニ慣ルルノ道ニシテ人生幸福ノ基礎ナルコトヲ能ク理解セシムヘシ又古參ノ者ニ對シテハ言語擧動自ラ敬意ヲ表シ徒ラニ我意ヲ張ルコトナク古參者ニ從フヘキコトヲ教ヘ遂ニ喜テ上官ノ命令ニ從ヒ水火且辭セサル第二天性ヲ作ルコトニ努力スヘシ

二　班長ハ班内ノ雜談ニモ能ク注意シ苟モ誹謗猜疑虛僞ニ涉ルコトナク常ニ班員ヲシテ快活無邪氣ナラシメ以テ自然ニ性行ヲ改善セシムルコトヲ期スヘシ又居常姿勢動作ヲ快活ニシ軍人ノ面目ヲ揚クルコトニ

心掛シムヘシ其他單簡活潑且明瞭ナル言語ヲ用ヒ漸次地方ノ訛(ナマリ)ヲ除キ軍人ノ用語ニ熟セシムヘシ

三　班長ハ能ク班内兵卒ノ性質、行狀、技能、經歷ヲ熟知シ特ニ金錢ノ遣ヒ方外出先ノ擧動ニ注意シ常ニ儉約ヲ守リ成ルヘク外出ノ度數ヲ少クシ都市華奢ノ風ニ感染スルコトヲ避ケシムヘシ又父兄等ニ金錢ヲ請求スルハ獨立自營ノ心ヲ害シ放蕩遊惰ノ途ヲ開クモノナレハ軍人ノ面目トシテ之ヲ愼マシムヘシ

四　班長ハ班員ヲシテ武士ノ嗜トシテ兵器ヲ尊重シ之ヲ大切ニ取扱ヒ朝夕愛撫シテ心膽ヲ練リ競フテ其技ニ長セシトスルノ心ヲ盛ナラシムヘシ馬ハ活動ノ武器ニシテ死生ヲ共ニスヘキ同僚ナルコトヲ能ク理解

セシメ飼方、手入、取扱、裝蹄ハ騎士ノ名譽トシテ常ニ注意スヘキモノナルコトヲ心根ニ徹セシムヘシ

五　班長ハ給與ニ關シテハ曹長ノ指圖ニ從ヒ支給、修理、交換、返納等一切ノ事ヲ取扱フモノトス是等ヲ各員ニ分配スルトキハ先ツ其用方、保存法ヲ綿密ニ教ヘ總テ官物ヲ大切ニスルト否トハ其人ノ公德如何ヲ卜知スヘキモノナレハ私物ヨリモ一層大事ニ取扱フヘキモノナルコトヲ示シ一々之ヲ事實ニ現ハサシムヘシ

總テ支給品ヲ破損紛失セシモノアルトキハ能ク其原因、破損ノ有樣等ニ留意スヘシ是多クハ其本人ノ性質行狀ヲ察知スルニ足ルモノナレハナリ

六　班長ハ被服ニ付テハ常ニ注意ヲ怠ルヘカラス被服

諸品ノ分配ニ當リテハ能ク各人ニ適合セシメ常ニ清潔ニシテ規則正シク著裝セシムヘシ演習、勤務、檢査等ニ出ルトキ又ハ外出ノ際ハ自ラ之ヲ檢査シ些少ノ不正過誤ト雖之ヲ矯正スルコト猶ホ慈母カ愛兒ノ著裝ニ注意スルカ如クナルヘシ又其修理ハ小破ノトキニ於テ各自ヲシテ之ヲ爲サシメ被服類ニ記シアル隊號、年月等ハ常ニ明ナラシメ洗濯ハ時々自ラ之ヲ行ハシメ殊ニ襦袢、袴下、靴下等ノ不潔ナラサルコトニ注意スヘシ靴ハ稍寛裕ナルモノヲ選ミ革質ヲ常ニ柔カナラシメ踵ヲ歪メサルコトニ心掛ケシムヘシ

七　班長ハ班内舍室ノ保存掃除及諸物品ノ裝置整頓ニ注意シ外形ヨリスル精神修養ノ手段トシテ斷ヘス兵

卒ヲ督勵シ規則正シク確實ニ施行スルコトニ慣レシムヘシ

八　班長ハ其班備付ノ物品監守者ト爲リ其定數ヲ明ニシ又兵卒ヲシテ公共物ニ對スル取扱ヲ一層丁寧ナラシムヘシ若シ原因不明ノ破損紛失アルトキハ班長自ラ其責ニ任スルモノトス

九　班長ハ懇ニ火災ノ恐ルヘキ所以ヲ説キ示シ火ノ元ヲ大切ニスルノ習慣ヲ養フヘシ

十　班長ハ週番士官立會ヒノ上班員ノ日朝日夕點呼ヲ行ヒ特ニ日夕點呼ノトキ曹長ヨリ傳達スル命令ヲ承知シ確實ニ履行セシムルヲ以テ重要ナル責任トス故ニ命令ノ大要ハ手帳ニ筆記シ置キ時々兵卒ニ申シ聞

ケ其實行ヲ確認スルニ至リテ止ムヘシ

十一　班長ハ兵卒ヲシテ個人衛生ヲ事實ニ履行セシムルコトヲ勉ムヘシ其最モ必要ナルハ外出ノ際暴飲暴食ヲ愼ミ花柳病感染ノ原因ヲ避クルニ在リ是等ニ付テハ班内ノ德義トシテ品行ヲ愼ムノ風ヲ漸次養成スヘシ

十二　班長ハ金錢時計等ヲ所持スルモノアルトキハ各自ヲシテ確實ニ保管セシメ相互貸借ヲ禁セラレタル規定ヲ守ラシムヘシ若シ班内ニ紛失物又ハ犯行者アルトキハ週番士官ニ屆出ヘシ專斷其取調ニ從事スヘカラス荏苒屆出ヲ稽緩スヘカラス固ヨリ同僚相互糺問等ノ事アラシムヘカラス總テ是等ノ事件發生ノ上

ハ隱蔽セス庇護セス有ノ儘ノ事實ヲ表白シテ速ニ處分ヲ仰クハ森嚴ナル軍紀ノ要求スル所ナルコトヲ普ク銘心セシムヘシ

十三　班長ハ班内ニ患者病馬ヲ生セシトキハ日朝點呼ノ際其他隨時週番下士ニ通知シ診斷ヲ受ケシメ其病狀ヲ承知スヘシ

班長ハ裝蹄ヲ要スル馬アルトキハ週番下士ニ裝蹄ノ手續ヲ請求スヘシ

十四　班長ハ臨時外出又ハ休暇ヲ願出ル者アルトキハ能ク其事情ヲ詮議シ許可ヲ請ヒ外出證又ハ外泊證ヲ受ケ本人ニ下付シ歸營後之ヲ返納スヘシ又外出ヲ願出ル者ニハ曹長ヨリ軍隊手牒ヲ受ケ之ヲ交付スヘシ」

歸省入院其他事故ノ爲一週日以上不在者ノ諸給與品ハ品目表ヲ添ヘ曹長ニ預ケ置クヘシ

第十四　班附下士ハ同心協力班長ヲ補助シ班内ノ成績ヲシテ善良ナラシムルノ責ニ任ス班長營内ニ在ラサルトキハ別命ヲ待タス高級古參ノ者其職務ヲ代理ス

第十章　代理

第一　各隊長若クハ職員缺員ノトキ、休暇、旅行、疾病等ノ爲職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ代理者其職務ヲ處理ス

第二　聯隊長ノ代理ハ別命ナク聯隊中高級古參ノ將校之ニ任スルモノトス大、中隊長材料廠長及聯隊本部ニ服務スル將校同相當官中代理者ヲ要スルトキハ聯隊長部下職員中適當ノ者ヲ選ヒ代理ヲ命スルモノトス

大、中隊長及材料廠長ノ其部下ニ於ケルモ亦前項ニ準ス」

各種委員ノ代理ハ聯隊長之ヲ命ス但シ委員中二人以上同種ノモノアル場合ニハ委員首座ハ甲委員ノ代理ヲ乙委員ニ命スルコトヲ得

委員附准士官下士ノ代理ニ關シテモ亦前項ノ規定ニ依ル

第三　代理者ハ通常本職ノ週番及衛戍勤務ヲ免ス但シ中隊長ノ代理者タル中少尉ハ週番大尉ノ勤務ニ服セスシテ本職ノ週番勤務ニ服スルモノトス

第四　不時ノ出來事ニ際シ之ヲ處理スヘキ責任者不在ノトキハ別命ナクシテ其場ニ現在スル高級古參ノ者之ニ代リ其處理ノ責任ヲ負フヘキモノトス故ニ上下常ニ其心掛ヲ爲シ置クヘシ

第十一章　命令下達

第一　命令（諸達、通報等ヲ含ム以下同シ）ノ下達ハ迅速確實ニシテ遺漏誤謬ナク其趣意ヲ貫徹セシムルヲ旨トス是統率ノ要義ニシテ軍紀振張セル軍隊始メテ之ヲ能クスルコトヲ得ヘシ故ニ各隊長ハ時々兵卒ニ試問シ隊中命令ノ徹底如何ヲ知ルヲ要ス

第二　隊中ニ於ケル命令ハ聯隊命令ヲ以テ基礎トス軍隊ニ關係アル法令其他官衙、司令部等ヨリ受ケタル命令、諸達、通報類ヲ隊內ニ普及セシムルハ聯隊長ノ責任ニシテ其全文又ハ要旨ヲ摘錄シ必要ニ應シ注意ヲ加ヘ下達スルモノトス

第三　命令中單簡ナルモノハ之ヲ口達シ否サルモノハ之ヲ筆記セシメ又ハ筆記シタルモノヲ交付スルコトアリ

第四　命令ヲ達シタルトキハ其誤謬ヲ避クル爲讀合セ若クハ復唱セシムヘシ

第五　聯隊副官ハ命令ヲ傳達シ報告ヲ受取ル爲聯隊長ノ定ムル時刻（至急ヲ要スルモノハ其都度）ニ於テ日々會報ヲ行フ大隊副官及中隊曹長之ニ參列スルモノトス

計手、看護長及蹄鐵工長モ亦之ニ參列シ各主管ニ屬スル事件ノミヲ承知ス其他必要ナル諸官ヲ參列セシムルコトアリ

第六　聯隊ノ受ケタル命令ヲ達スル場合ニハ他日ノ索引ニ便スル爲其種類、番號、月日、官報ノ番號等ヲ先ツ記載セ

シメ然ル後其要件ヲ筆記セシムヘシ

隊中ヨリ出ス命令ハ月日ヲ以テ區分シ番號ヲ付スルコトナシ

第七　聯隊副官ハ命令ヲ傳達スルニ當リ其永久ニ効力ヲ有スルモノ若クハ他日ノ參考ニ必要ナルモノハ永久ノ命令錄、一時限（凡ソ一ケ年ヲ限界トス）ノモノハ一時ノ命令錄ニ記入セシムヘシ

第八　命令ヲ達スルニハ聯隊本部附將校下士ニハ其原本ヲ大、中隊將校下士ニハ命令錄ヲ閲覽セシメ之ニ認證ヲ受ケ兵卒ニハ其要旨ヲ摘ミ之ニ注意ヲ加ヘテ口達スヘシ

第九　大隊長及中隊長ヨリ發スル命令ハ口達スルヲ例ト

ス若シ筆記ヲ要スルモノアルトキハ永久ト一時トニ應シ聯隊會報ニ用フル命令錄中ニ記入セシムヘシ又命令ノ結果ニ依リ大隊長ニ於テ其施行ニ要スル命令ヲ下スヲ必要ト認ムルモノアルトキハ聯隊副官ハ豫メ大隊副官ニ內示シ大隊長ノ指示ヲ受ケ會報ニ出席セシメ同時ニ大隊命令ヲ當該受領者ニ下サシムルヲ便利トス

第十二章　兵營及室內裝置

第一　兵營內ノ各室諸倉庫等ハ編制ノ順序ニ從ヒ業務ノ連繫監視ノ便否ヲ圖リ配置スルモノニシテ通常之ヲ本部、兵舍、厩、砲(車)廠、倉庫、工場、炊事場等ニ分チ浴室、洗面所、洗濯所、風紀衞兵所、營倉、面會所、酒保、集會所等ヲ附屬ス

第二　本部ハ聯、大隊本部員ノ事務ニ服シ及本部附下士ノ居所ニシテ之ヲ事務室、下士室、週番室ニ區別ス又爲シ得レハ會報室、講堂等ヲ附屬ス

第三　兵舍ハ下士兵卒ノ居所ニシテ中隊每ニ區分シ下士室、兵室ニ分チ中隊事務室、將校室及若干ノ物置ヲ置ク

第四　中隊事務室ハ中隊長、特務曹長及曹長ノ事務ヲ取扱

フ所トス

第五　將校室ハ中隊附士官及見習士官ノ詰所ニシテ通常週番士官室ヲ兼ヌルモノトス

第六　下士室ハ成ルヘク之ヲ事務室ト居室トニ分チ居室ニハ中隊長ノ許可スル食器其他ノ物品ヲ備ヘ相當ノ裝飾ヲ施スコトヲ得セシム又曹長及在營六年以上ノ下士若クハ聯隊長ノ指定スル內務班長ニハ各一室ヲ給スルコトヲ得

第七　兵室ハ兵舍ノ構造ニ依リ中隊每ニ若干ノ內務班ニ分チ兵卒ヲ適當ニ配當ス

第八　各獨立隊ニ醫務室ヲ設ケ通常診斷室、治療室、藥室、休養室ヲ附屬ス而テ休養室ハ成ルヘク兵室ヨリ離レアルヲ良トス又傳染病患者ノ爲隔離室ヲ豫定シ置クヘシ

第九　各乘馬隊及電信大隊ニ獸醫事務室ヲ設ケ藥室、治療所、蹄鐵工場、病馬厩等ヲ附屬シ又傳染病馬ノ爲每隊若クハ數隊共用ノ隔離厩ヲ附屬ス

第十　見習士官、士官候補生等ニハ成ルヘク別室ヲ與フルヲ良トス

第十一　聯隊長ハ必要ト認ムルトキハ中少尉同相當官ヲシテ營內ニ宿泊セシムルコトヲ得

第十二　聯隊長ハ營內ニ於テ整列、訓練及兵舍ノ風通シ日當リヲ害セサル地ニ樹木花卉ヲ植ヘ共用銃架等ヲ設ケ遊戲場ヲ置クコトヲ得

第十三　營庭、器械體操場、障碍飛越場及馬場等ハ各受持

中隊ヲ定メ其掃除、手入、保存ヲ擔當セシムヘシ又器械體操場等ニハ常ニ砂ノ量ヲ充分ナラシムヘシ

第十四　教育用圖書等ヲ印刷スル爲印刷所アル場合ニ在リテハ聯隊長ノ定ムル聯隊本部附將校ノ管理ニ屬スルモノトス

第十五　狹窄射擊場ハ營內若クハ其附近ニ設ケ嚴ニ危害豫防ノ手段ヲ施スヘシ

第十六　物干場ハ成ルヘク各中隊ニ分チテ之ヲ設ケ當該中隊ヲシテ其保存ヲ擔當セシムヘシ

第十七　厠、塵(ゴミ)捨場(ステバ)、馬糞溜、馬尿溜及灰捨場ハ惡水ノ地下ニ浸込マサルコトニ注意シ常ニ其周圍ヲ清潔ナラシムヘシ灰捨場ニ在リテハ特ニ火ノ氣ニ注意スヘシ

第十八　馬繫場(ウマツナギバ)ノ清潔保存及馬丁風紀ノ取締ハ其隊ノ乘馬委員之ニ任シ馬丁ヲシテ其掃除ヲ爲サシムヘシ

第十九　兵室及其備付物品ノ清潔保存ハ室內全員ノ負擔スル所ニシテ內務班長其責ニ任スルモノトス其他ニ在リテハ各室內高級古參者（隊長ハ同室ノ次級者ヲシテ之ニ任セシムルコトヲ得）諸倉庫、工場等ニ在リテハ關係委員又ハ工長若クハ聯隊長ノ定ムル監守者ヲシテ其責ニ任セシムルモノトス總テ共同ニ使用スル場所及物件ハ特ニ清潔保存ニ注意スヘシ其良否ハ該隊協同一致ノ觀念如何ヲトスルニ足ルモノトス

第二十　各室、厩、諸倉庫等ニハ一定ノ標札ヲ掲ケ其用途、使用部隊等ヲ示スヘシ但シ勉メテ不要ノ文字ヲ省キ又

必要ナキ場所ニ妄ニ掲ケサルコトニ注意スヘシ

第二十一　寝臺ニハ使用者ノ官等級、氏名ヲ記シタル札ヲ掲ケ手箱(テバコ)、銃架、被服棚及外套掛等ニハ氏名ヲ記シタル紙札ヲ貼リ附クヘシ

第二十二　各隊長及委員首座ハ教育若クハ業務上必要ナル事項及圖畫ヲ室內、厩、倉庫、廊下等ニ掲示スルコトヲ得

第二十三　備付陣營具及貯藏物品ノ員數表ハ各室、物置、倉庫、工場等ニ掲ケ置クヘシ

第二十四　下士以下ヲシテ各自ニ保管セシムル兵器、被服等ノ數ハ其保存及使用時期等ヲ顧慮シ聯隊長之ヲ定ムルモノトス其裝置法ハ概ネ附圖第一ノ如シ

第二十五　燈火具及油入ハ油ノ漏レサル箱ニ入レ其出シ入レニ當リ近傍ヲ汚ササルコトニ注意スヘシ

第二十六　練習用具ハ其種類ニ應シ將校下士ヲ指定シ其格納、保存、手入ヲ擔任セシムヘシ

第二十七　本部、中隊、衛兵所、炊事場、厩及工場ニハ時計ヲ備ヘ衛兵所ノ時計ヲ基準トシテ日々時限ヲ正サシムヘシ

第二十八　舍室ノ保存清潔及衛生保持ノ爲兵舍倉庫內ニ於テハ脱靴セシムルコトアリ然ルトキハ之ニ土草履ヲ給スルコトアリ

第二十九　各室及廊下ニ備付ケタル痰壺(タンツボ)ニハ約四分ノ一ノ水ヲ容レ毎朝取換ヘ汚水ハ厠ニ棄ツヘシ

第三十　窓ノ開閉其度合並窓掛ノ垂レ方ハ季節ニ依リ聯隊長之ヲ定ムヘシ

第三十一　中隊ハ適宜ノ場所ニ理髮所ヲ選ヒ置キ兵卒ノ理髮及髭剃ハ相互此所ニ於テ行ハシムルモノトス

[illegible]

第十三章　委員

第[illegible]　聯隊ニ左ノ委員ヲ置キ兵器、被服、糧秣、金櫃、營繕等ニ係ル事務ヲ處理セシム各委員ハ其擔任ノ事務ニ付聯隊長ニ對シ其責ニ任ス但シ歩兵聯隊ニ在リテハ大隊ニ糧秣委員大尉少尉一(首座)、中尉一主計一ヲ置キ大隊長ニ對シ其責ニ任セシム

兵器委員　佐官(大尉)一名首座　尉官一乃至三名

主計一名

經理委員　佐官(大尉)一名首座　尉官若干名　主計全員

營繕委員　佐官(大尉)一名首座　尉官　一(二)名

右ノ外聯隊長ハ委員附トシテ准士官、下士若干名ヲ置

ク

第二　兵器委員ハ兵器ノ受領、支給、交換、貯藏、新調、經理、工卒ノ敎育、工場ノ監視及修理、手入用品ノ購買並新調、修理品等ノ檢査ヲ掌ル

第三　經理委員ハ諸給與ノ定額受領、給與ノ實施、金錢物品ノ出納保管ニ係ル事務及工卒ノ敎育ヲ掌ル

第四　營繕委員ハ土地工作物ノ保持營繕ニ關スル報告及請求ニ任シ又委託ニ係ル營繕ノ實行ヲ掌ル

第五　糧秣委員ハ其隊糧秣ノ調辨貯藏及炊事ノコトヲ掌リ裝蹄剔毛ニ係ル經理事務ヲ兼掌ス

第十四章　工場

第一　工場ハ兵器被服ノ製作修理、彈藥ノ塡實及裝蹄、造鐵、剔毛ヲ行ヒ兼テ工卒ヲ敎育スル所トス

第二　關係主任者ハ工場ヲ管理シ場內ノ軍紀風紀ヲ維持シ淸潔ヲ保チ工業用材料、工場備付物品ノ保存出納及工卒ノ敎育ヲ監督スヘシ

上等工長、火工掛下士其他諸工長ハ各主任者ノ指揮ヲ受ケ擔任業務ニ服スヘシ

第三　工卒ノ所要人員ハ日々定時限ニ工場ニ集リ人員檢査ヲ受ケタル後業ニ就キ退出ノ際ニハ所持品ノ檢査ヲ受クヘシ

火薬火具ヲ取扱フ者ニ在リテハ「マッチ」其他發火ノ虞アルモノヲ携フヘカラス[illegible]

第四　工卒疾病其他ノ事故ニ依リ出場シ能ハサルトキハ週番下士ヨリ其旨ヲ工長ニ申出ヘシ

第五　工卒ハ毎週概ネ二回所屬中隊ノ演習ニ出場セシムルモノトス[illegible]

第六　工場ヲ閉タル後其鍵ハ工長之ヲ風紀衛兵司令ニ預ケ置クヘシ[illegible]

第七　工場内ノ規定概ネ左ノ如シ[illegible]

一　作業中ハ殊ニ靜肅ヲ旨トシ雜談喫烟ヲ許サス又工場内ハ常ニ清潔ナラシムヘシ

二　作業中ハ工長ノ許可ナクシテ工場ヲ離ルルコトヲ許サス

三　私ニ他人ノ依頼ヲ受ケ諸物品ヲ製作修理シ又ハ諸材料消耗品等ヲ工場外ニ持出スヘカラス

四　貸與器具ハ丁寧ニ取扱ヒ若シ破損紛失等アレハ工長ニ届出ヘシ

五　日々作業ノ終ニ於テ工場ノ内外ヲ掃除シ諸物品ヲ整頓シ火爐其他ノ火ヲ消シ工長ノ檢査ヲ受クヘシ

第十五章　週番勤務

第一　週番諸官ハ營内ノ取締ニ任シ軍紀風紀ノ維持諸法則ノ實施如何ヲ警視スルヲ任トス而テ之ヲ分チテ聯隊週番勤務、中隊週番勤務トス

第二　大尉及特務曹長ノ週番勤務ハ聯隊長之ヲ命シ其他ノ週番勤務ハ中隊長之ヲ命ス而テ其勤務ハ通常土曜日正午ニ始リ次週土曜日正午ニ終ルモノトス但シ週番勤務ニ服スル人員少キトキ又ハ一時已ムヲ得サル事故アルトキハ聯隊長之ヲ日直勤務ト為スコトヲ得

第三　週番勤務ノ者ト雖日常ノ勤務ハ固ヨリ之ヲ勤メシム但シ衛兵等ノ諸勤務ハ之ヲ免スルモノトス

第四 總テ週番勤務ニ服スル者ハ演習勤務ノ外營外ニ出務セサルヲ通則トシ週番將校及特務曹長ハ營內ニ宿直スルモノトス但シ週番士官演習等ノ爲營外ニ出ントスルトキハ週番下士ヲ殘シ置クヘシ中隊ノ全部營外ニ出ルトキト雖週番下士上等兵ノ內一名ハ必ス殘ルヘキモノトス[illegible]

週番大尉、週番特務曹長營外ニ出ントスルトキハ聯隊長ノ許可ヲ受ケ代理者ヲ置クヘシ

週番勤務ニ服スル者私事ノ爲外出ヲ要スルトキハ代理者ヲ定メ聯隊長若クハ週番大尉ノ許可ヲ受クヘシ

第五 週番諸官ノ室ニハ必要ニ依リ消燈後ト雖點燈シ置クコトヲ得然ルトキハ之ヲ週番大尉ニ屆出ヘシ

第六 週番勤務交代ノ際上番者ハ下番者ヨリ所要ノ申送及物品ノ引繼ヲ受クヘシ又申送終レハ上番者ハ週番勤務上直屬ノ上官ニ申告スヘシ

第七 週番服務中ニ生シタル事件ハ日々其隊長ニ報告スヘシ但シ火急ヲ要スルモノハ電話其他急使ヲ以テスヘシ[illegible]

服務中ノ事件ニシテ他日ノ參考ニ供スヘキモノハ申送帳ニ記載スヘシ

第八 週番勤務ノ爲定メタル事項ハ日直勤務ニ準用ス

聯隊週番勤務[illegible]

第九 聯隊週番勤務ハ中隊長及聯、大隊附大尉ヲ通シ一名之ヲ週番大尉ト云フ特務曹長一名ヲ以テ之ニ服セシム[illegible]

中隊長心得ノ職ヲ奉スル中尉ハ大尉ノ週番勤務ニ服スルモノトス

第十　週番大尉ハ風紀衞兵及週番勤務ニ服スル諸官ヲ指揮シ其職務ヲ執行ス

週番大尉ハ營倉並消防隊ヲ管轄シ消防具ヲ保管シ營内火災豫防及消防ニ付其責ニ任ス

週番大尉ハ必要ニ應シ臨時點呼ヲ行フコトヲ得

第十一　週番大尉ハ聯隊長不在ノトキ緊急ノ場合ニ於テハ火災、水災等ノ際赴援隊ヲ差遣シ風紀衞兵ヲ增員スルコトヲ得

第十二　週番大尉日常ノ勤務概ネ左ノ如シ

一　時々營内ヲ巡視シ又週番士官、週番特務曹長及風紀衞兵ニ時刻場所ヲ指定シテ巡察セシムヘシ

下番ノ衞戍衞兵司令ヨリ其服務中ノ狀態ヲ承知スヘシ

二　上番諸衞兵及衞戍傳令等ニ服スル人馬ノ數及其軍裝ヲ檢査シ必要ノ訓示ヲ與フヘシ

三　營倉入ノ者（營倉留置者含ム以下同シ）ノ出入ハ一々承知シ風紀衞兵司令ヲシテ其受渡ヲ掌ラシムヘシ

四　休日ニ於テ下士以下多數外出シタルトキハ週番士官ヲシテ營外必要ノ場所ヲ巡察セシムヘシ

五　將官又ハ廉アル巡視ノ爲上官來營スルトキハ其送迎ヲ爲スヘシ

六　週番士官、週番特務曹長ヨリ代理者ヲ定メ臨時歸宅

ヲ願出ル者アルトキ其隊長不在ナルトキハ事情ヲ糺シ之ヲ許スコトヲ得

七 氣候ノ關係ニ依リ下士以下及風紀衛兵ノ服裝ヲ臨時定ムルコトヲ得

八 下士以下ノ父兄親戚又ハ當該地方官公吏等ニシテ營內ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ差支ナキ限リ之ヲ許シ適當ノ者ヲ付シ案內セシムヘシ

九 風紀衛兵司令ヨリ面會者ニ付指圖ヲ請フトキハ之ヲ詮議シ許否ヲ定ムヘシ

十 風紀衛兵司令ヨリ納メ來ル物品持出證ヲ檢シ之ヲ發シタル者ニ返スヘシ

十一 消燈後延燈ヲ許シタル旨週番士官若クハ副官等

ヨリ届出ルトキハ之ヲ風紀衛兵ニ達スヘシ

十二 本部附下士ニシテ副官退營後公用外出若クハ臨時外出ヲ願出ル者アルトキハ其事情ヲ糺シ之ヲ許スヘシ之カ爲週番大尉ノ許ニ若干ノ公用證及外出證ヲ備置クモノトス

十三 物品ノ紛失拾得或ハ犯罪者等アリタルトキ之ヲ要スレハ憲兵隊又ハ警察署ニ照會スル等機宜ノ取計ヲ爲スヘシ

第十三 週番特務曹長ハ週番大尉ノ命ヲ承ケ細務ニ從事ス其日常ノ勤務概ネ左ノ如シ

一 上番衛兵集合所ニ集リタルトキハ聯隊長ノ定メタル隊形ヲ取ラシメ之ヲ指揮シテ週番大尉ノ檢査ヲ受

ケシムヘシ檢查終レハ受持場毎ニ部署シ衞兵司令ヲシテ守地ニ引率セシムヘシ

二　時々風紀衞兵所及哨所ヲ巡察シ守則ヲ試問シ其勤惰ヲ監督スヘシ

三　時々面會所、商人ノ溜所及馬繋場ヲ巡視シ其風紀ヲ取締リ清潔ヲ維持セシムヘシ

四　時々各中隊ノ掃除區域ヲ巡視シ其手入保存ニ注意シ又構外ニ出テ墻壁、溝等ニ注意スヘシ

五　臨時點呼ノ時ハ聯、大隊本部、休養室、酒保、集會所等中隊ニ屬セサル場所ノ人員檢査ニ任スヘシ

第十四　聯、大隊本部ニハ本部附下士一名ヲシテ日直勤務ニ服セシメ副官退營後本部ノ取締及庶務ノ受理ニ任

セシム日直下士ハ此際恒例外ノ事務ニ付テハ週番大尉ノ指圖ヲ請ヒ之ヲ處置スヘシ

聯隊本部大隊本部一所ニ在ルトキハ聯、大隊本部ヲ通シ日直下士ヲ一名ト爲スコトヲ得

第十五　醫務室ニハ看護長一名（看護長及上等看護卒ヲ通シテ一名ト爲スコトヲ得）ヲ以テ日直勤務ニ服セシメ軍醫退營後醫務室休養室ノ取締、庶務ノ受理並患者ノ救急治療ニ任セシム

日直看護長ノ外步兵、鐵道聯隊醫務室ニハ二名、砲兵聯隊醫務室ニハ一名ノ週番上等看護卒ヲ置キ日直看護長ノ指圖ヲ受ケ細務ニ從事セシム

日直看護長ハ恒例外ノ事務者クハ重症患者發生シタルトキハ週番大尉ノ指圖ヲ請フヘシ

第十六　鐵道聯隊材料廠、電信大隊材料廠ニ在リテハ隊長ハ適宜週番若クハ日直勤務ノ者ヲ置キ本隊週番大尉ノ指揮ヲ受ケ廠内ノ取締ニ任セシムヘシ

第十七　聯隊長必要ト認ムルトキハ右ノ外工場其他ニ日直勤務者ヲ置クコトヲ得

中隊週番勤務

第十八　中隊ノ週番勤務ハ中隊附中少尉士官勤務ニ服スル見習士官ヲ含ム一名之ヲ週番士官ト云フ軍曹伍長伍長勤務上等兵ヲ含ム一名之ヲ週番下士ト云フ上等兵二名トス乘馬隊ニ在リテハ上等兵ノ中一名ハ厩週番トス

第十九　週番士官ハ週番下士上等兵ヲ指揮シ其職務ヲ執行ス

週番士官日常ノ勤務概ネ左ノ如シ

一　中隊人馬ノ員數及狀況ヲ承知シ患者病馬アルトキハ受診ノ手續ヲ爲サシムヘシ若シ軍醫獸醫退營後來診ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ日直ノ軍醫又ハ獸醫ニ通報スヘシ

二　時々兵舍、厩、砲廠等ヲ巡視シ諸規定ノ實行ヲ監督シ且兵器、材料、馬等手入ノ際ハ現場ニ臨ミ監視スヘシ又週番下士上等兵ニ場所及時刻ヲ指定シテ巡視セシムヘシ

夜間ハ特ニ火元ノ取締ニ注意シ夜間勤務ニ服スル者ノ勤惰ヲ監視シ兵卒臥寢ノ狀況等ニ注意スヘシ

三　朝夕及臨時點呼ノ際ハ週番下士ヲ隨ヘ人員檢査ニ

立會ヒ異狀ノ有無ヲ週番大尉ニ報告スヘシ

四　公用證、外出證ヲ保管シ必要ニ應シ之ヲ下付スヘシ

五　公務又ハ修學等ノ爲延燈ヲ願出ル者アルトキハ其事情ヲ糺シ時限ヲ定メテ之ヲ許シ覺紙ヲ以テ週番大尉ニ届出ヘシ

六　物品持出證ノ下付ヲ願出ル者アルトキハ其事情ヲ糺シ之ヲ許スヘシ

七　物品ノ紛失拾得、歸營遲刻者等アリタルトキハ週番大尉ニ報告シ其取調ヲ爲スヘシ

八　脱營犯罪者等アリタルトキハ臨機處分ヲ爲シ速ニ中隊長及週番大尉ニ報告シ其指圖ヲ受クヘシ

九　取締上ニ關シ週番大尉ヨリ命令若クハ訓示等アリタルトキハ之ヲ所屬中隊長ニ報告スヘシ

第二十　週番下士ハ週番士官ノ旨ヲ承ケ週番上等兵ヲ指揮シ細務ニ從事ス乘馬隊ニ在リテハ其他廐當番卒ヲ指揮シ廐ニ關スル規定ヲ實行セシメ又内務班ニ屬セサル廐具及場所ノ清潔保存ノ責ニ任スルモノトス

週番下士日常ノ勤務概ネ左ノ如シ

一　人馬ノ員數及狀況ヲ承知シ患者アルトキハ患者名簿ニ其官等級、氏名ヲ記シ定時限ニ之ヲ率ヒ診斷ヲ受ケシメ患者名簿ニ所要ノ記入ヲ爲シ軍醫ノ一閲ヲ受クヘシ又病馬アルトキハ病馬名簿ニ其馬名ヲ記シ廐週番上等兵ヲシテ診斷ヲ受ケシメ共ニ其結果ヲ中隊長、週番士官、特務曹長及曹長ニ報告スヘシ

不時診斷ヲ要スル者アルトキハ週番士官ニ屆出テ其指圖ヲ受クヘシ
入院入厩ヲ要スル人馬アルトキハ軍醫又ハ獸醫ノ指圖ニ依リ之ヲ取扱フヘシ退院退厩ノ場合モ亦同シ

二　週番士官ヨリ定メラレタル時刻ニ所定ノ場所ヲ巡視シ諸規定ノ確實ニ行ハルルヤ否ヲ監視シ消燈後ハ特ニ火ノ氣ノ消滅ヲ確ムヘシ

三　朝夕及臨時點呼ノ際ハ週番士官ニ隨行スヘシ

四　日々演習出場ノ人員馬數ヲ調査シ演習時間前ニ之ヲ中隊長及週番士官ニ報告スヘシ

五　特務曹長ヨリ下士以下ノ勤務割ヲ承知シ之ヲ本人ニ傳ヘ又内務班長ニ通スヘシ

六　上番衛兵ノ軍裝ヲ檢査シ定時限ニ之ヲ率ヒ集合所ニ至リ（衛兵司令週番下士ヨリ高級古參ナルトキハ同官ハ直ニ集合所ニ至ルヘシ）週番特務曹長ノ指揮ヲ受クヘシ但シ週番下士ノ服裝ハ上番衛兵ニ同シ只背嚢（外套）ヲ負ハサルヲ異ナリトス

七　炊事準備ノ爲毎日朝食ハ前日夕食後、晝食ハ當日朝食後、夕食ハ當日晝食後直ニ週番士官ノ認證ヲ得タル食需傳票ヲ炊事掛ニ送付スヘシ若シ傳票ヲ發シタル後人員ニ增減ヲ生シタルトキハ速ニ其旨ヲ炊事掛ニ通報スヘシ
外出スル下士以下ニシテ兵營ニ歸リ食事セサル者ノ人員、辨當ヲ要スル人員及不食料ノ支給ヲ受クヘキ者ノ官等級、氏名ヲ内務班長（聯、大隊本部日直下士）ヨリ承

知シ其辨當數ハ炊事掛ニ、不食料ノ支給ヲ受クヘキ者ノ氏名ハ曹長及炊事掛ニ通報スヘシ

八　馬糧ハ日々現馬數ニ依リ所要高ヲ傳票ニ記入シ週番士官ノ認證ヲ經テ經理委員又ハ糧秣委員ヨリ之ヲ受領シ內務班ニ分配スヘシ

九　馬ノ手入時間ニハ專ラ厩ニ在リテ手入及飼方ノ實施ヲ監視スヘシ

十　內務班ヨリ裝蹄ヲ請求スルトキハ裝蹄請求簿ニ記入シ之ヲ厩週番上等兵ニ交付シ裝蹄ノ手續ヲ爲サシメ其結果ヲ中隊長及週番士官ニ報告スヘシ

十一　下士以下多數外出シタルトキハ歸營時限後各班ヲ巡視シ異狀ノ有無ヲ週番士官ニ報告スヘシ

十二　入寢後ハ脫衾者ナキヤ室內換氣法適當ナルヤ等總テ衛生ニ關シ注意ヲ怠ルヘカラス氣候激變ノ際ハ殊ニ然リ

十三　下士以下延燈ヲ願出ル者アルトキハ之ヲ週番士官ニ申出テ其許否ヲ本人ニ通知スヘシ

十四　犯行者アルトキハ其事ノ輕重如何ヲ問ハス直ニ週番士官ニ報告スヘシ

十五　營倉入ノ者アルトキハ其著裝携帶品ヲ檢查シ罰目、日數、隊號、官等級、氏名ヲ記シタル覺紙ト共ニ風紀衛兵司令ニ引渡スヘシ又營倉ヨリ出ル者アルトキハ之ヲ同司令ヨリ受取ルヘシ

十六　面會人アルコトヲ風紀衛兵ヨリ通知シ來ルトキ

ハ之ヲ本人ニ告ケ且特務曹長ニ報告スヘシ若シ本人不在ナルトキハ其行先キ、歸營時刻等ヲ同衛兵ニ通知スヘシ

第二十一　週番上等兵ハ週番下士ノ旨ヲ承ケ細務ニ從事ス其日常ノ勤務概ネ左ノ如シ

一　每朝室內、廊下、窓、物置、銃架、机、腰掛、燈器、火鉢、煖爐等ノ掃除ヲ監視シ當番卒ヲ集メ中隊受持ノ場所ヲ掃除セシメ常ニ兵舍內外ノ清潔ヲ保チ又掃除器具ノ保存ニ任スヘシ

二　厩、兵舍ノ內外ヲ巡視シ諸規定ノ確實ニ行ハルルヤ否ヲ監視シ日夕點呼後ハ特ニ各室ヲ見廻リ火鉢、煖爐等ノ火ヲ確實ニ消サシメ週番下士ノ檢查ヲ受クヘシ

演習、勤務等ノ爲舍內人少ノトキ又ハ烈風ノ際ハ巡視ノ度數ヲ增シ盜難火元ノ取締ニ注意スヘシ

三　食事分配ノトキハ週番下士ノ指圖ヲ受ケ食事番ヲ率ヒ炊事場ニ至リ食事ヲ受取リ之ヲ分配シ食事後ニハ食器ノ員數、破損ノ有無ヲ調ヘ之ヲ炊事掛ニ返納スヘシ

四　營倉入ノ者ニ食事、寢具等ヲ差入ルルトキハ檢查ノ上風紀衛兵所ニ送リ衛舍掛ニ引渡スヘシ食器、寢具等返納ノトキハ衛舍掛ヨリ之ヲ受取ルヘシ

五　苦役ニ處セラレタル者アルトキハ週番士官ノ指圖ヲ受ケ之ヲ指揮シテ苦役ニ從事セシムヘシ

第二十二　厩週番上等兵日常ノ勤務概ネ左ノ如シ

一　斷ヘス厩ノ内外ヲ巡視シ厩當番卒ノ勤惰ヲ監視シ中隊共用ノ物品ヲ保管シ馬ノ狀態、窓戸ノ開閉、寢藁等ニ注意スヘシ診斷又ハ裝蹄ヲ要スル馬アルトキハ内務班長ニ通報スヘシ

二　朝夕及臨時點呼ノ際ハ厩當番卒ヲ整列セシメ人員檢査ヲ行ヒ異狀ノ有無ヲ週番下士ニ報告スヘシ

三　病馬名簿ヲ週番下士ヨリ受取リ定時限ニ於テ當番卒ヲシテ病馬ノ診斷治療ヲ受ケシメ病馬名簿ニ所要ノ記入ヲ為シ獸醫ノ一閲ヲ經テ週番下士ニ差出スヘシ

四　裝蹄請求簿ヲ週番下士ヨリ受取リ定時限ニ於テ當番卒ヲシテ其馬ヲ裝蹄所ニ牽カシメ裝蹄終レハ蹄鐵

工長ヨリ裝蹄請求簿ニ所要ノ記入ヲ受ケ週番下士ニ差出スヘシ

第十六章　火災豫防、消防及非常呼集

第一　凡ソ火災ハ人畜ニ危害ヲ及ホシ國帑ヲ糜シ軍隊ノ敎育及衛生ヲ害スル等其弊枚擧ニ遑アラス而テ多クハ疎虞ヨリ生スルモノトス上下一致全幅ノ注意ヲ以テ其危害ヲ未然ニ豫防セサルヘカラス之カ爲嚴守スヘキ規定概ネ左ノ如シ

一　喫烟ハ舍內ニ在リテハ所定ノ場所外ニ於テスルヲ禁ス舍外ト雖彈藥庫、火藥庫、氣球庫、兵器庫、被服庫、厩、馬糧庫、薪炭庫等ノ近傍ニ於テスルヲ禁ス

二　「マッチ」ノ燃殼煙草ノ吸殼ニハ火ノ氣ノ殘ラサルコトニ注意シ火鉢其他火災ノ恐ナキ場所ニアラサレハ

之ヲ棄ツヘカラス

三　蠟「マッチ」ノ如キ發火ノ早キモノヲ所持スヘカラス普通ノ「マッチ」ト雖成ルヘク一箱ヨリ多ク所持スヘカラス酒保等ニ於テモ餘分ニ貯藏スヘカラス

四　倉庫內等ニ餘分ノ油紙又ハ油雜巾類ヲ置クヘカラス

五　擅ニ火ヲ點スヘカラス裸燈火ヲ使用スヘカラス燈火ヲ所定ノ場所外ニ持行クヘカラス又將校以下提燈ヲ使用セサルコトヲ勉ムヘシ

六　不完全ナル火取ニテ火ヲ運フヘカラス舍外ニテ火ヲ運フニハ蓋ノアル火取ヲ用フヘシ

七　彈藥其他爆發ノ恐アル物品ヲ舍內ニ置クヘカラス

八　煖爐、火鉢等ニ接近シテ薪炭、紙屑籠類ヲ置クヘカラス

九　煖爐ノ蓋ヲ取リ又ハ焚火口ヲ開ケ放スヘカラス又煖爐、火鉢等ハ室ノ壁ヨリ相當ノ距離ヲ隔テ要スレハ金屬板ヲ以テ壁ヲ被フヘシ

十　煖爐ヲ過度ニ焚クヘカラス又煖爐ニテ紙屑類ヲ焚クヘカラス火鉢ニ多クノ火ヲ入ルヘカラス演習出場、諸官退營及消燈後ハ火ヲ消シ餘燼ヲ止ムヘカラス

十一　火鉢ハ消火後其定數ヲ表記シアル場所ニ集メ併ヘ置クヘシ火鉢ノ灰ハ七分目ナルヲ度トス

十二　公務又ハ修學ノ爲延燈ヲ許サレタル者ハ其室內ニ於ケル總テノ火ヲ消スノ責ニ任シ火ノ氣ナキコト

ヲ確認シタル後ニアラサレハ就寝スヘカラス

十三　烟突又ハ装置ニハ火ノ氣ノ漏レサルコトニ注意シ每週一回掃除シ煤烟ヲ除クヘシ

十四　營內各部ニ付火元取締ノ責任者ヲ定メ置クモノトス

又中隊每ニ不寝番一二名ヲ置キ火元取締ニ任シ兼テ盜難及衞生ノコトニ注意セシムヘシ

十五　工場、集會所、酒保、炊事場、浴室、當番卒ノ居室、倉庫、薪炭及燈油ノ格納所ニ於テハ用事ヲ終リ之ヲ閉ツル前火元取締ニ關シ聯隊長ノ指定スル擔任者ハ各受持每ニ火ノ始末ヲ爲シ火ノ氣ナキコトヲ確認シ其責ニ任スヘシ

十六　營內緊要ノ場所ニハ輕便消火器ヲ備ヘ常ニ一定ノ位置ニ置キ下士以下ヲシテ普ク其使用法ヲ知ラシメ又其藥液ハ種類ニ依リ期限ヲ定メテ交換スヘシ水道消火栓ノ位置並其使用法モ亦熟知セシムヘシ

十七　彈藥庫ノ傍ニハ目塗土ヲ備ヘ置クヘシ

第二　週番大尉ハ火災豫防ノ主ナル責任者トス週番士官、週番特務曹長、風紀衞兵司令等ニ場所及時刻ヲ割當テ營內各所ヲ巡視シ火元取締ニ任セシメ又火災豫防法實施ノ成否ヲ監視セシムヘシ

第三　聯隊長ハ消防具及用水ノ狀況ヲ顧慮シ消防隊ヲ編成シ置クヘシ週番大尉ハ必要ニ當リ此隊ヲ呼集シ使用スルモノトス

第四　毎月第一週ノ週番大尉ハ消防隊ヲ以テ消防演習ヲ行フヘシ若シ消防具ニ異狀アルトキハ即時修理、交換等ノ手續ヲ爲スヘシ

第五　營內出火、近火等ニシテ呼集ヲ要スルトキハ週番大尉ハ火災呼集ノ號音ヲ吹カシムヘシ將校若クハ風紀衞兵司令ハ自ラ其責ニ任シ此號音ヲ吹カシムルコトヲ得

第六　出火ノ際ハ大事ニ至ラサル前之ヲ消止ムルヲ以テ第一ノ目的トス故ニ火元若クハ其近傍ニ居合セタルモノハ服裝等ノ如何ヲ顧ミス速ニ之ニ駈付ケ諸種ノ手段ヲ盡シテ消防ニ勉ムヘシ

出火ノ際ニ於ケル處置ハ其地ニ現在スル者ノ臨機ノ取計ニ任シ遺策ナキコトヲ期スルヲ本旨トス然レトモ一

般ノ場合ニ於ケル動作ヲ示スコト左ノ如シ

一　消防隊ハ現時ノ衣袴ノ儘所定ノ場所ニ集合シ消防隊司令ノ指揮ヲ受クヘシ委員附下士、工卒、當番卒ハ各、受持ノ場所ニ至ルヘシ

其他ノ下士以下ハ兵器ヲ携ヘ所定ノ位置ニ集合シ高級古參者ノ指揮ヲ受クヘシ

二　其舍室ヨリ出火ノトキハ集合スルコトナク各自兵器、非常持出書類、公用書類、被服等ノ順序ニ之ヲ舍外安全ノ地ニ持出スヘシ機密秘密圖書ニハ特ニ監視者ヲ付シ其散逸ヲ防クヘシ

三　軍旗、御眞影、勅諭等ニ延燒スルノ虞アリテ上官ノ指圖ヲ待ツノ遑ナキトキハ當該步哨ハ勿論其附近ニ居

合ス者ハ之ヲ他ニ奉移スヘシ

四　營倉入ノ者ヲ出スヲ要スルトキハ風紀衛兵ハ其處置ヲ爲スヘシ若シ逃走ノ恐アル者ニハ監視者ヲ附スヘシ

五　厩ニ延燒ノ恐アルトキハ馬ニ水勒ヲ著ケ安全ノ地ニ牽出シ然ル後馬具、厩具ヲ持出スヘシ若シ事火急ニシテ之ヲ牽出ス遑ナキトキハ寢張綱ヲ解キ又ハ之ヲ切リテ馬ヲ救出スヘシ但シ成ルヘク營門外ニ出ササルコトニ勉ムヘシ

六　週番大尉ハ要スレハ風紀衛兵哨所ノ數ヲ增シテ外ノ警戒ヲ嚴ニシ妄ニ無用ノ人民ヲ營內ニ入ルヘカラス

七　週番大尉ハ地方消防隊消防組ヲシテ入門セシムルコトヲ得

八　營外居住者ニハ週番諸官ヨリ電話若クハ急使ヲ以テ通報スヘシ

第七　營內ニ火災アルトキハ聯隊長ハ直ニ所屬上官ニ急報シ爾後速ニ其原因ヲ調査シ報告スヘシ

第八　官衙、公署、將校同相當官、下士ノ家宅及兵營附近ニ火災アルトキハ聯隊長ハ救援ノ爲必要ノ人員ヲ派遣スルコトヲ得

第九　水災、風災、震災等ノ場合ニハ概ネ本章ニ準シ適宜處置スヘキモノトス

第十　非常ノ際ハ現在スル高級古參者ノ機宜ノ處置ニ任

[illegible]シ遺策ナキヲ期スルコト勿論ナリト雖概ネ火災ノ爲定メタル諸件ヲ適用スヘシ

第十一　非常呼集ヲ要スルトキハ聯隊長ハ非常呼集ノ號音ヲ吹カシムヘシ此號音ニテ將校以下軍裝ヲ爲シ步兵工兵ハ舍前ニ整列シ其他ハ概ネ砲廠ニ於テ乘馬、繫駕、駄載ノ準備ヲ爲シ命ヲ待ツヘシ[illegible]

風紀衞兵及其控兵ハ衞舍前ニ整列スヘシ

第十二　非常呼集ノ際週番諸官ハ屢々營內ヲ巡視シテ特ニ火元取締ニ注意スヘシ又兵舍ニハ必要ノ監守者ヲ置クヘシ[illegible]

第十三　非常ノ際聯隊長ハ衞戍總督又ハ衞戍司令官ノ許ニ命令受領者ヲ出スヘシ

第十七章　風紀衞兵

第一　風紀衞兵ハ兵營每ニ之ヲ設ケ週番大尉ノ指揮ニ屬シ營內ノ取締ニ任シ營門出入ノ者ヲ監視スルヲ以テ任務トス

第二　風紀衞兵服務ノ爲ニハ本章ノ外衞戍衞兵ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノトス

第三　風紀衞兵ノ其步哨ヲ出スハ通常軍旗、營門、營倉、彈藥庫等トス其服務ハ通常二十四時間トシ一哨所ノ爲ニハ兵卒三名ヲ以テ之ニ充テ單哨ニシテ概ネ一時間每ニ交代スルモノトス但シ必要ニ應シ兵數ヲ增加シ哨所ノ數ヲ增シ又ハ複哨、下士哨ト爲スコトヲ得

第四　風紀衛兵司令ハ通常下士ヲ以テ之ニ任シ衛舍掛、歩哨掛ハ上等兵ヲ以テ之ニ任ス但シ衛兵ノ人員少キトキハ上等兵一名ヲシテ此兩勤務ヲ兼ネシムルコトヲ得

第五　風紀衛兵ノ服裝ハ軍裝トシ雜嚢、水筒、背負袋、器具、手旗、飯盒、豫備靴、携帶天幕、毛布ヲ除クモノトス但シ銃ヲ携ヘサル者ハ背嚢ヲ負フコトナシ

第六　風紀衛兵衛兵所ニ在ル間ハ銃及背嚢ヲ順序正シク整頓シ置クヘシ敬禮ノ爲整列スルトキ及巡察ノ際ハ背嚢ヲ負ハサルモノトス

第七　風紀衛兵所ニハ必要ノ場合ヲ除ク外通常彈藥ヲ備付ケサルモノトス

第八　風紀衛兵ハ書見スヘカラス又許可ナクシテ衛兵所

ヲ離ルヘカラス衛兵司令若シ衛舍ヲ離ルルヲ要スルトキハ代理者ヲ命シ置クヘシ

第九　聯隊長ハ日夕點呼後ヨリ起床マテ風紀衛兵ノ三分ノ一ニ衛兵所ニ於テ假眠ヲ許シ又毛布、蚊帳ノ使用ヲ許スコトヲ得

第十　風紀衛兵司令ハ週番大尉ノ命ヲ承ケ、衛兵ヲ指揮シ營倉ヲ監守シ日課ノ諸號音ヲ定時限ニ吹カシメ且衛兵所、營倉及備付物品ノ清潔保存ノ責ニ任スヘシ其日常ノ勤務概ネ左ノ如シ

一　上番衛兵司令ハ下番衛兵司令ヨリ必要ノ申送ヲ受ケ衛舍掛ヲシテ諸物品ヲ受取ラシメ歩哨掛ヲシテ歩哨ヲ交代セシムヘシ又營倉ニ在ル者ノ人員、著裝、所持

品等ハ自ラ之ヲ檢査スヘシ

右終レハ上下番衛兵司令ハ週番大尉ノ許ニ至リ其旨ヲ報告シ下番衛兵司令ハ此際報告表及物品持出證ヲ同官ニ差出スヘシ

二　衛兵交代後直ニ各哨所ヲ巡視シ歩哨ニ其守則ヲ試問スヘシ爾後屢、巡察シ歩哨ノ勤惰ヲ監視スヘシ

三　週番大尉ヨリ命セラレタル時刻其他必要ト認ムルトキ營内ヲ巡察シ非違ヲ戒メ特ニ火災豫防ニ注意スヘシ其他部下ノ營内巡察勤務ヲ定ムヘシ

四　衛兵所ノ時計ハ營内時刻ノ標準ナレハ毎日正午之ヲ正スヘシ

五　表門ハ通常起床號音ニテ開キ夕食號音ニテ閉チ其

他ノ諸門ハ聯隊長ノ定ムル時刻ニ於テ開閉スヘシ

六　將官又ハ廉アル巡視ノ為上官來營スルトキハ速ニ週番大尉ニ報告スヘシ

七　外來人ニ對シテハ左ノ手續ニ依ルヘシ

准士官以上ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ名刺ヲ求メ若クハ氏名ヲ尋ネ之ヲ該官ノ許ニ案内シ又ハ通報シテ其指圖ヲ待ツヘシ

下士以下ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ面會所ニ案内ノ後面會ヲ求ムヘキ者ノ隊號、官等級、氏名及本人ノ身分、氏名ヲ面會簿ニ記入セシメ若クハ代筆シ聯、大隊本部附ハ其本人ニ中隊附ハ週番下士ニ通報スヘシ

面會ヲ求メラレタル者不在ナルトキハ成ルヘク其行

先キ歸營時刻等ヲ告ケ知ラスヘシ若シ入院中ノ者ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ病院所在地經路等ヲ教ユヘシ

面會人傳染病流行地ヨリ又ハ其地ヲ經過シ來リタルトキハ週番大尉ノ指圖ヲ受ケ之ヲ取扱フヘシ

營內參觀ヲ請フ者アルトキハ週番大尉ノ指示ヲ受クヘシ

面會人中風紀ニ害アリト認ムル者アルトキハ週番大尉ニ申出テ其指圖ヲ受クヘシ

總テ外來人ニハ相當ノ禮意ヲ表シ言葉ヲ丁寧ニシ懇切且速ニ取扱フヘシ

八　准士官以上及之ニ準スヘキ者並其隨從者ノ外營外

ニ物品ヲ持出サントスル者アルトキハ其持出證ト物品トヲ照合スヘシ若シ持出證ナキ者又ハ證明外ノ物品ヲ携フル者アルトキハ之ヲ止メ週番大尉ニ屆出ヘシ

九　表門ノ出入ヲ許スヘキ者左ノ如シ

指揮官ニ依リ引率セラレタル者

准士官以上及其隨從者並制服ヲ著シタル陸軍高等文官

下士以下ニシテ軍隊手牒、公用證、外出證、外泊證ヲ所持スル者

憲兵、傳令使及郵便電信ヲ配達スル者

門鑑ヲ所持スル者

特ニ聯隊長ノ許可セル者

十　兵卒ニ在リテハ夕食時限後、下士ニ在リテハ日夕點呼後營門ヲ出入スル者アルトキハ自ラ之ヲ檢スヘシ」
公用又ハ外出許可ヲ得テ臨時ニ營門ヲ出入スル下士兵卒アルトキモ亦自ラ其證ヲ檢スヘシ

十一　歸營遲刻者アリタルトキハ隊號、官等級、氏名及入門時刻ヲ記シ週番大尉ニ報告シ且本人所屬部隊ノ週番下士ニ通報スヘシ

十二　衛兵所、營倉及備付物品中破損紛失等アルトキハ其事由ヲ糺シ破損品ニ在リテハ自然ト過誤トヲ區別シ紛失品ニ在リテハ其理由ヲ修理申立帳ニ記入シ週番特務曹長ノ認證ヲ受ケ聯隊本部ニ申出ヘシ

消耗品ハ衛舍掛ヲシテ聯隊本部ヨリ受領セシムヘシ

十三　營倉入ノ者アルトキハ週番下士ヨリ之ヲ受領シ著裝、所持品等ヲ檢査シ營倉ニ錮シ隨時巡視シ營倉ノ清潔及換氣ニ注意スヘシ
演習、入浴其他取調等ニテ營倉入ノ者ヲ連レ出ス爲週番下士來ルトキハ本人ヲ引渡スヘシ
營倉ノ開閉ハ自ラ之ヲ爲シ物品出入レノ際ニハ之ニ立會フモノトス但シ衛舍掛ヲシテ代理セシムルコトヲ得

十四　衛兵及營倉入ノ者診斷ヲ願出ルトキハ週番大尉ニ届出テ所屬中隊ノ週番下士ニ通報シ診斷ヲ受ケシムヘシ

衛兵中若シ疾病事故等ニテ服務セシメ難キ者アルトキハ週番大尉ニ報告シ所屬中隊ニ代人ヲ請求スヘシ

十五　非常又ハ火災アルトキハ衛兵ヲ整列セシメ週番大尉ニ急報シ其指揮ヲ受クヘシ若シ火災ニシテ瞬時モ猶豫スヘカラサルトキハ號音ヲ吹カシメ營倉入ノ者ヲ他ニ移シ其他臨機ノ處置ヲ爲スコトヲ得

十六　起床時限前ニ起床ヲ要スル者ノ呼起シヲ依託セラレタルトキハ之ニ應スヘシ

第十一　衛舍掛ハ風紀衛兵司令ノ命ヲ承ケ衛兵所、營倉、面會所等內外ノ清潔保存ニ任シ備付諸物品ヲ監守シ火元取締ニ任スヘシ其日常ノ勤務概ネ左ノ如シ

一　當番卒ヲ割出シ營門、衛兵所其他受持場ヲ掃除セシメ又窓硝子、燈具其他備付諸品ノ手入ヲ爲サシムヘシ

二　營倉內ノ掃除ハ營倉入ノ者アルトキハ毎日之ヲシテ掃除セシメ否サルトキハ當番卒ヲ使用スヘシ

第十二　歩哨掛ハ風紀衛兵司令ノ命ヲ承ケ歩哨ノ交代ヲ掌リ哨舍ノ清潔保存ニ任シ歩哨ヲシテ服裝ヲ正フシ守則ヲ熟知シ之ヲ嚴密ニ實施セシムルヲ以テ任務トス

第十三　歩哨一般ノ守則ハ衛戍衛兵歩哨ノ爲定メタルモノヲ適用シ其特別ノ守則ハ聯隊長之ヲ定ムヘシ

第十八章　營倉

第一　營倉ハ重（輕）營倉ニ處セラレタル者ヲ錮シ又犯罪者ニシテ處分未決ノ者及一時營倉入ヲ必要トスル者ヲ留置ク所トス

第二　營倉入ノ者ハ成ルヘク一人宛別房ニ錮スルヲ要スヘシ

第三　營倉各房ノ入口ニハ營倉入ノ者ノ隊號、官等級、氏名、重（輕）營倉、留置等其他必要ナル件ヲ記シタル札ヲ掲クヘシ

第四　輕營倉入ノ者ニハ消燈時限ヨリ起床時限マテノ間蚊帳、毛布ヲ與ヘ食物ハ平常ニ異ナルコトナシ又必要ノトキ入浴ヲ許スヘシ

重營倉入ノ者ヲ輕營倉ニ移シタルトキハ前項ニ準シ之ヲ取扱フヘシ

第五　營倉入ノ者ニハ著用スル被服ノ外物品ヲ所持スルコトヲ許サス但シ用紙若干及勤務書ノ內一本ヲ限リ之ヲ許スコトヲ得

第六　營倉入ノ者ニハ公務ノ外面會スルコトヲ許サス又營倉入ノ者ヲ出ストキハ監視者ヲ付スヘシ

第七　滿罰者ハ營倉ニ入リタル時刻ニ係ラス滿罰翌日ノ起床時限ニ之ヲ出スモノトス

第十九章　當番卒及從卒

第一　傳令其他諸雜役ニ充ツル所ノ兵卒ヲ當番卒ト稱ス

第二　當番卒ヲ使用スル場所及人員ハ勉メテ之ヲ節減シ濫用スルコトヲ許サス又臨時必要ノ當番卒ハ成ルヘク演習時間外ニ使用スヘシ

第三　當番卒ノ人員、場所、勤務及時間其他演習、檢査等ノ免否ハ聯隊長之ヲ定ムヘシ

下士候補者及新兵敎育ヲ終ヘサル者ハ當番卒ノ勤務ニ服セシメサルヲ例トス

第四　特種ノ勤務ニ充ツル當番卒ニシテ屢、交代セシメ難キ者ト雖同一兵卒ヲ三ケ月以上連續使用スルコトヲ得

ス而シテ此種ノ當番卒ト雖毎週少クモ二日演習ニ出場セシムヘシ

第五　徒歩兵ノ當番卒ハ通常脚絆ヲ著クルモノトス

當番卒若シ引率者ナクシテ營外ニ出ルトキハ公用證ヲ携ヘシムヘシ

第六　營外ニ用ユル當番卒ノ數ヲ減スル爲至急ヲ要セサルモノハ豫メ時刻ヲ定メ取纏メ之ヲ發送スヘシ又營內ニ於ケル用事ハ成ルヘク當番卒ヲ使用セス各自之ヲ辨スルコトヲ勉ムヘシ

第七　師、旅團長及隊附將校（旅團副官ヲ含ム）ニハ必要アルトキハ從卒トシテ其隊中ヨリ兵卒一名ヲ採リ使用スルコトヲ許ス其兵卒ハ主トシテ第三（第二）年兵中品行方正、

勤務勉勵、技藝熟達ノ者ヲ選拔スヘシ

從卒ノ任免ハ軍隊手牒ニ記入シ外出等ニ當リ其證據トスヘシ

第八　從卒ハ將校ノ傳令、兵器被服ノ拭淨、貸與馬ノ手入飼方口取ニ任スルモノトス但シ檢査、演習等ニハ必ス出場セシムヘシ

同一ノ兵卒ヲ三ケ月以上使用スヘカラス但シ貸與馬ヲ取扱フ從卒ニ在リテハ六ケ月以內使用スルコトヲ得

第九　從卒ハ兵營出入ノ際ハ週番下士及內務班長ニ屆出ヘシ若シ日夕點呼後ナルトキハ其使用者ヨリ證明書ヲ受ケ出入ノ證トスヘシ

第十　從卒ヲ使用スル將校及聯隊附將校相當官ハ其病氣

看護ヲ要スル等必要已ムヲ得サルトキニ限リ聯隊長ノ承認若クハ許可ヲ得テ從卒（將校相當官ニ在リテハ當番卒）ヲ家宅又ハ病院ニ宿泊セシムルコトヲ得然ルトキハ之ニ不食料ヲ給スルモノトス

聯隊長ハ同衛戍地ニ居住セル將校同相當官若クハ其家族ニ死者アルトキハ其葬儀ニ關シ所要ノ當番卒ヲ差遣スルコトヲ得

第十一　聯隊長ハ從卒ノ使用其當ヲ得サル者アルトキハ其使用ヲ停止スルコトヲ得

第十二　從卒及當番卒ニ對シテハ何等ノ名義ヲ論セス報酬トシテ金錢ヲ與フルコトヲ禁ス

第十三　當番卒一般ノ心得左ノ如シ

一　服務スヘキ室內倉庫等ハ常ニ清潔ナラシメ備付物品ハ其數ヲ明ニシ破損紛失等ナキ樣丁寧ニ取扱ヒ且妄ニ定メラレタル位置ヲ變ユヘカラス又特ニ火元取締ニ注意スヘシ

二　自己ノ用便ノ爲許可ナクシテ其服務ノ場所ヲ離ルヘカラス

三　傳令ヲ命セラレタルトキハ其居先ヲ能ク承知シ若シ口上ヲ以テ傳達スヘキトキハ出發前其要旨ヲ復唱シ又用事ヲ終ヘタルトキハ速ニ復命スヘシ往復途中ニ於テ私用ヲ辨スル等ノコトアルヘカラス

四　當番卒ノ交代ハ定メラレタル時刻ニ於テ上下番ノ者立會ヒノ上申繼ヲ爲シ監督主任者ニ報告スヘシ又

諸物品ノ受渡ヲ爲スニハ品目表ニ照シ破損紛失ノ有無ヲ改ムヘシ若シ破損品アルトキハ自然ト過誤トヲ分チ又紛失品ニ在リテハ其理由ヲ取調ヘ之ヲ監督主任者ニ報告スヘシ

五　當番卒中高級古參者タルカ年長者ハ取締ニ任シ他ノ當番卒ヲ指揮シ之ト共ニ命セラレタル業務ニ服スヘシ

第二十章　檢查

第一　各隊長ハ部下ヲシテ兵器、被服其他一般ノ官給品並建物、陣營具、消耗品等ヲ大切ニ取扱ヒ能ク保存節約スルヲ以テ軍人ノ義務トシ名譽トスル所ノ精神ヲ發揮セシメ其良習慣ヲ養成スルノ責任ヲ有スルモノトス

第二　各隊長ハ兵器被服ノ整備保存ノ良否ヲ檢スル爲時々軍裝檢查ヲ行フヘシ

此檢查ニ際シ軍裝中特ニ除クヘキ品アルトキハ其都度之ヲ定ムヘシ

第三　各隊長ハ兵器、被服、器具、材料、建物、陣營具其他諸物品ノ整備及各部分ノ手入保存ノ良否ヲ檢スル爲時々細密

檢査ヲ行フヘシ

此檢査ニ於テハ勤務等ノ爲一時不在者ノ物品モ裝置セシムルモノトス

細密檢査ノ裝置ハ概ネ附圖第二第三ニ依ル

第四　中隊長ハ毎週土曜日午後其管理ニ屬スル諸物件ノ保存、手入、修理ノ良否ヲ檢スル爲清潔檢査ヲ行フヘシ特ニ兵器ヲ分解シ其細部ヲ檢査スルトキハ之ヲ兵器分解檢査ト云フ

總テノ物品ヲ同時ニ檢査スルトキハ綿密ニ檢査スルコト困難ナルヲ以テ其種類ヲ定メ各別ニ檢査スルヲ良トス

中隊長已ムヲ得サル事故アルトキハ部下ノ將校ニ命シ

檢査ヲ行ハシムルコトヲ得

第五　副官、軍醫、獸醫及各委員ハ前條ニ準シ其管理ニ屬スル諸物件ノ清潔檢査ヲ行フヘシ

第六　馬ノ檢査ハ概ネ左ノ通行フヘシ但シ中隊長ノ行フ檢査ニハ獸醫之ニ立會フヘシ

一　中隊長ハ飼方、手入、取扱、裝蹄ノ適否ヲ檢スル爲概ネ毎月一回

二　各隊長ハ行軍、演習等ノトキ其體力ニ及ホス成績ノ調査又ハ除役馬ノ決定、新馬ノ配當其他臨時必要ノトキ

第七　檢査ノ爲上官巡視ノ際中隊長ハ將校、特務曹長、曹長及週番下士ヲ隨ヘ適宜ノ位置ニ之ヲ迎ヘ中隊ノ人員ヲ

報告シ自ラ其先導ヲ爲シ其他ノ者ハ隨行スルヲ例トス

本部、廠、砲廠等巡視ノ場合モ亦前項ニ準ス

各委員ニ於テ管理スル場所ノ檢査ニ在リテハ總テ第一項ニ準ス

第八　檢査ヲ爲シタル者ハ檢査ノ結果ニ付其可否及將來ニ關スル注意ヲ訓示シ又要スレハ直屬ノ上官ニ之ヲ報告スヘシ

第二十一章　起居及容儀

第一　凡ソ家庭ノ修養足ラサルトキハ如何ニ學校教育完備セリト雖有爲ノ青年ヲ造ルコト能ハサルト同樣營內ノ修養足ラサルトキハ如何ニ教練ニ熟シ武技ニ長スルモ眞正ノ軍人ヲ出スコト能ハス左レハ各上官ハ兵營起居ニ付テハ全幅ノ注意ヲ加ヘ軍隊ニ於ケル家庭ノ修養ヲ全フセシムルコトヲ期セサルヘカラス

第二　起床及消燈ノ時刻ハ該地所在ノ高級古參ノ軍隊指揮官之ヲ定ムルモノトス

聯隊長ハ教育其他ノ都合ニ依リ前項ノ時刻ヲ一時伸縮スルコトヲ得

第三　教育上ニ關スル日課及其時限等ヲ定ムルハ當該職責者ノ任スル所ナリト雖聯隊一般ノ勤務時限ハ聯隊長之ヲ定ムヘシ而テ起床、點呼、食事、會報、馬ノ手入、消燈ハ通常喇叭號音ヲ用フルモノトス

第四　下士以下ハ每朝起床ノ號音ニテ床ヲ離レ著裝ヲ正シ日朝點呼ノ號音ニテ兵卒ハ所定ノ位置ニ於テ週番士官監視ノ下ニ內務班長ヨリ人員檢查ヲ受クヘシ下士ハ其所屬班ノ檢查ニ立會フモノトス但シ曹長ハ此限ニ在ラス

又本部附下士ハ日直下士、休養室ノ者ハ日直看護長、酒保集會所炊事場等ノ者ハ高級古參者日朝點呼ヲ爲シ異狀ノ有無ヲ週番大尉ニ報告スヘシ

當日診斷ヲ受ケントスル者ハ此際其旨ヲ內務班長ニ屆出ヘシ內務班長ハ其官等級、氏名ヲ週番下士ニ通報スヘシ

起床ノ後窓戶ヲ開キ毛布敷布ヲ振ヒ丁寧ニ疊ミ枕ヲ蒲團ト寢臺トノ間ニ挿ミ面ヲ洗ヒ兵器ヲ拭ヒ被服ヲ整頓シ馬ノ手入飼付ヲ爲スヘシ

第五　寢具ハ午食後之ヲ展ヘ蚊帳ハ通常夕食後寢臺ニ掛ケ日夕點呼後之ヲ張ルモノトス

第六　日夕點呼ハ消燈時限前三十分ニ於テ行フモノニシテ其方法ハ日朝點呼ニ同シ命令、訓示等ハ通常此際授ケラルルモノトス

第七　臨時點呼ノ方法ハ日朝點呼ニ同シ

第八 營內ニ於テハ左ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 室內ニ在リテハ靜肅ヲ旨トシ粗野ノ言行ヲ愼ムヘシ消燈後ハ他人ノ安眠ヲ妨クル所爲アルヘカラス

二 總テ官物ハ丁寧ニ取扱ヒ保存ヲ第一トシ紛失セサル樣注意スヘシ又特ニ定メラレタルモノノ外官給ノ物品ニ自己ノ氏名、符號等ヲ記入彫刻シ又ハ私ニ革條ニ孔ヲ穿ツヘカラス

三 室內ニ入ルトキハ必ス靴ノ泥土ヲ丁寧ニ拭フヘシ

四 室內ハ常ニ清潔ニシ能ク整頓シ物品ヲ亂雜ニシ又ハ定メラレタル場所外ニ持行クヘカラス

五 濕氣アル被服ハ物干場ニ出シ乾カスヘシ成ルヘク室內ニ置クヘカラス

六 定メラレタル時間外又ハ場所外ニ於テ妄ニ食事スルコトヲ許サス又食事中ハ特ニ他人ノ感情ヲ害シ若クハ鄙陋ニ涉ル言行ヲ愼ムヘシ

七 階子段ノ昇降及戶ノ開閉ハ靜カニスヘシ

八 烟草ハ定メラレタル場所外ニ於テ吸フヘカラス又特ニ許サレタル飲食品ノ外室內ニ於テ飲食スヘカラス

九 室內及廊下ハ勿論窓ヨリ痰唾ヲ吐クヘカラス

十 紙屑ハ必ス紙屑籠ニ投スヘシ營內ニ散ラシムヘカラス

十一 窓、戶、壁、机、腰掛、煖爐其他ノ諸器具ヲ汚シ、傷ケ、落書シ又ハ妄ニ釘ヲ打付クヘカラス

十二　窓ヨリ流動物其他ノ物品ヲ投ケ又ハ窓ニ物ヲ干スヘカラス

十三　私ニ鳥獸ヲ飼フヘカラス

十四　大小便ハ厠ノ外ニ於テスヘカラス塵芥ハ塵捨場ノ外捨ツヘカラス又厠、塵捨場ハ特ニ清潔ニスルコトニ注意スヘシ

十五　兵器、被服其他諸物品ノ掃除ハ定メラレタル場所外ニ於テスヘカラス

十六　炊事場、浴室、工場、倉庫、砲廠、厩等ニハ妄ニ立入ルヘカラス

十七　許可ナキ物品ヲ營内ニ持入リ又ハ妄ニ官給品ヲ營外ニ持出スヲ禁ス

十八　金錢ハ聯隊長ノ制限セシ以上ヲ所持スヘカラス且互ニ之ヲ貸借スルヲ禁ス

十九　新聞雜誌類ハ聯隊長ノ許シタルモノニアラサレハ讀ムコトヲ許サス又許可ナクシテ自己ノ發意若クハ他人ノ依頼ニ依リ印刷物ヲ配布スルコトヲ禁ス

第九

兵器、器具、材料、建物其他諸物品ヲ自己ノ不注意等ニ依リ毀損若クハ遺失シタルトキハ相當ノ處罰ヲ受クルノミナラス其代價ノ全部若クハ一部ヲ給料中ヨリ辨償セシムルコトアリ然ルトキハ其辨償金額ハ軍隊手牒ニ記入スルモノトス

第十

起床後ヨリ日夕點呼マテハ寢臺上ニ橫ハルコトヲ許サス然レトモ一般休日、夜間勤務ヲ爲シタル翌日及暑

中等聯隊長ヨリ午睡ヲ許サレタル場合ハ此限ニ在ラス

第十一　聯隊長ヨリ脱靴ヲ命セラレタル場合ハ下士以下ハ其入口ニ於テ靴ヲ脱キ定メラレタル場所ニ置クヘシ但シ脱靴ノ場合ニハ上履ヲ用フルコトヲ得檢閲其他廉アル場合ニ在リテハ脱靴セシメサルヲ例トス

第十二　消燈後公務又ハ修學ノ爲延燈ヲ要スル者ハ中隊ニ在リテハ週番士官、其他ニ在リテハ副官委員等ノ許可ヲ受クヘシ而テ右ノ諸官ハ其旨ヲ週番大尉ニ届出ヘシ

第十三　世論政治ニ關スル演説會ニ臨ミ又ハ之ニ關スル論説記事ヲ新聞雜誌等ニ投書スルヲ禁ス

學術講演會ニ臨席シ又ハ學術ニ關スル論説記事ヲ投書セントスル者ハ豫メ隊長ノ許可ヲ受クヘシ

第十四　娯樂ノ爲ト雖金錢物品ヲ賭シ勝負ヲ爭フ行爲ハ總テ嚴禁ス

第十五　聯隊長ノ許可アルトキハ室内ニ於テ上衣ノ釦ヲ外シ又ハ全ク脱キ扇子ヲ使用スルコトヲ得但シ豫メ上官巡視ノ命アルトキハ服裝ヲ正スヘシ

第十六　水ノ使用ハ成ルヘク節約スルコトニ慣レシムヘシ戰地ニ於テ多量ノ水ヲ得ルコトハ困難ナルモノナレハナリ

第十七　被服ノ小修理ハ戰地ニ於ケル豫習トシテ巧ニ補綴スルコトニ慣ルルヲ要ス又其隊號、年月、氏名等ハ常

ニ明瞭ニ爲シ置クヘシ

第十八、下士以下ニハ一般ニ私服ヲ所持スルコトヲ許サス但シ入營ノ際著用セシ下著類ハ此限ニ在ラス

第十九　物品ヲ遺失又ハ紛失シタルトキハ直ニ內務班長ニ屆出ヘシ其之ヲ發見シ又ハ拾ヒタルトキ亦同シ

第二十　犯罪ノ嫌疑者ヲ互選投票シ又ハ私ニ懲戒糺問スル等ノ行爲ヲ嚴禁ス

第二十一　服裝ハ斷ヘス軍人ヲ監視スルモノニシテ其不正、不締ナルハ心性ノ不確實ナル反應ナレハ服裝ニ付上官ヨリ注意ヲ受クルハ軍人ノ一ノ恥辱ナリト心得ヘシ其注意スヘキ事項槪ネ左ノ如シ

一　頭髮ハ短ク剪ルヘシ帽ヲ冠ルニハ左右ニ歪ミ又ハ仰向ニセス其徽章ヲ正シク鼻ノ線ニ一致セシムヘシ若シ顎紐ヲ用フルトキハ適度ニ之ヲ緊ムヘシ

二　釦「ホック」「ピジョウ」ハ之ヲ脫シ置クヘカラス袴ニ在リテハ特ニ注意スヘシ又磨クヘキ金物ハ常ニ光澤アラシムヘシ

三　下襟又ハ襟布ハ上衣ノ襟ヨリ適度ニ現ハスヘシ其他ノ物ヲ頸ニ卷クヘカラス若シ病氣ノ爲之ヲ要スル場合ニ在リテモ成ルヘク外ニ現ハスヘカラス又襦袢ノ袖口ハ上衣ノ袖口ヨリ多ク出スヘカラス

四　上衣ハ釦ノ線ヲ正シク體ノ中央ニ置キ袴ハ下ラサル樣著スヘシ脚絆ヲ用フルトキハ袴ノ皺ヲ外側ニ正シク集ムヘシ

五　上衣若クハ外套ノ上ニ刀劍ノ帶革ヲ締ムルトキハ其皺ヲ正シク體ノ兩側ニ集ムヘシ

六　衣服ノ表面ニハ鈕紐其他布片等ヲ現ハスヘカラス

七　靴ノ踵ヲ踏ミ歪メサルコトニ注意スヘシ長靴ノ釣紐ヲ外ニ現ハスヘカラス

八　被服、寢具等ハ兵卒各自清潔ニ洗濯スヘシ然レトモ屢〻之ヲ行フトキハ地質ヲ弱クスルモノナレハ成ルヘク汚ササル樣注意スヘシ

第二十二章　休日及外出

第一　大祭祝日、年末年始、靖國神社大祭日、陸軍始、陸軍紀念日、日曜日其他定メラレタル休日ニハ通常演習ヲ休ミ營內ニ於テ休養セシム但シ下士以下勤務ニ差支ナキ限リ本人ノ希望ニ依リ外出セシムルコトヲ得然レトモ成ルヘク兵營ニ歸リ食事セシムルヲ例トス

總テ外出ノ度數多キニ過クルトキハ驕奢ノ風ニ感シ易ク餘計ノ金錢ヲ費スノ弊アルヲ以テ各隊長ハ深ク茲ニ注意スルヲ要ス

第二　兵卒ノ外出ハ朝食後ヨリ夕食時限マテトシ下士ノ外出ハ日夕點呼時限マテトス

練兵休、乘馬休以上ノ患者及處罰中ノ者ハ外出ヲ許サス

第三 休日ニ於テ勤務等ノ爲休暇スルコト能ハサル者ニ對シテハ代日休暇ヲ與フルコトナシ但シ演習、檢閲等ノ爲部隊一般ニ休日ヲ廢シタルトキハ聯隊長ハ隊務ニ妨ケナキ日ヲ選ヒ該部隊ニ休暇ヲ與フルコトヲ得

第四 聯隊長ハ休業數日ニ亘ル場合ニ於テ勤務ニ差支ナキトキハ品行方正ニシテ勤務ニ勉勵シ技藝ニ熟達シ且旅費其他家計上差支ナキコトヲ確認シタル者ニハ其間歸省ヲ許スコトヲ得

第五 總テ外出セントスル者ハ兵營ニ歸リ食事スルヤ否ヲ豫定シ炊事準備ニ間ニ合フ如ク內務班長（本部附ハ當該日直下士）ニ屆出ヘシ是無益ノ準備ヲ避ケ一般ノ食物ヲ善良ナラシムル爲必要ノ事ナルヲ以テ各自ノ德義ニ鑑ミ手落アルヘカラス

夕食時限マテ外出スル下士以下ニシテ已ムヲ得ス兵營ニ歸リ晝食スルコト能ハサル者ハ前日夕食マテニ內務班長ニ屆出テ辨當ヲ請求スヘシ若シ辨當ヲ斷ル者アルモ不食料ヲ給セサルモノトス

定例休暇、請願休暇等ニシテ缺食スルモノニハ不食料ヲ給スルモノトス

第六 下士兵卒臨時外出ヲ願出テ其事情已ムヲ得サルコトヲ確認シタルトキハ各隊長ハ之ニ四十八時間以內ノ外出ヲ許スコトヲ得

第七 各隊長ハ演習、勤務等ニ差支ナキ下士ニハ日々午後

課業濟ヨリ日夕點呼マテ業間外出ヲ許スコトヲ得

第八　公用ノ爲下士以下ヲ外出セシメントスル者ハ中隊長、同官不在ナルトキハ週番士官（本部附ハ副官同官不在ナルトキハ週番大尉）ノ許可ヲ得公用證ヲ受ケ本人ニ交付ス本人ハ内務班長及週番下士（本部附ハ日直下士）ニ屆出テ外出スヘシ歸營シタルトキハ公用證ハ之ヲ受ケタル職員ニ返納シ内務班長及週番下士（本部附ハ日直下士）ニ屆出ヘシ

第九　中隊ノ一般休日（本部ニ在リテハ本部ノ休日）ニアラサル日ニ外出セシトスル者、日夕點呼後ニ歸營セントスル者若クハ日夕點呼後外出セントスル者ハ内務班長ヲ經テ中隊長（本部附ハ副官同官不在ナルトキハ週番大尉）ニ願出テ外出證ヲ受ケ週番下士（本部附ハ日直下士）ニ屆出テ外出スヘシ歸營シタルトキハ外出證ハ之ヲ受

領セシ職員ニ返納シ週番下士（本部附ハ日直下士）ニ屆出ヘシ

第十　一般休日ニ外出スル者ハ内務班長（本部附ハ副官同官不在ナルトキハ週番大尉）ヨリ軍隊手牒ヲ受ケ外出スヘシ歸營シタルトキハ軍隊手牒ヲ受領セシ職員ニ之ヲ返納スヘシ

第十一　下士以下外出スルトキハ所命ノ服裝ヲ爲スヘシ外套ヲ携フルトキハ卷テ左肩ヨリ右腋下ニ掛クヘシ」雨雪天若クハ道路泥濘ノトキハ徒歩兵ニ在リテハ脚絆ヲ著スヘシ

旅行又ハ歸省ヲ許サレタル者ハ外套ヲ携ヘ徒歩兵ニ在リテハ脚絆ヲ著スヘシ

第十二　下士以下二十四時間以上外出スルモノニハ外泊證ヲ携帶セシムヘシ

第十三　下士以下營門ヲ出入スルトキハ外出ヲ許サレタルヲ證スル爲軍隊手牒、公用證、外出證、又ハ外泊證ヲ歩哨ニ示スヘシ但シ日夕點呼後ヨリ翌日日朝點呼マテノ間ニ營門ヲ出入スルモノハ自ラ風紀衛兵司令ニ届出テ外出免許ノ證據ヲ示スヘシ

第十四　下士以下物品ヲ營外ニ持出サントスルトキハ中隊ニ在リテハ週番士官聯、大隊本部附ハ副官其他ハ關係准士官以上ニ物品持出證ヲ請求シ營門ヲ出ルトキ歩哨ニ渡シ物品ト照合ヲ受クヘシ出入商人其他ノ者物品ヲ持出サントスルトキ亦同シ

總テ准士官以上ハ物品持出證ヲ付與スルコトヲ得ルモノトス

第十五　鐵道乘車證及乘船證ノ下付ヲ要スル者ハ中隊ニ在リテハ内務班長ヲ經テ曹長ニ聯、大隊本部ニ在リテハ副官ニ願出ルモノトス

大隊副官及曹長ハ鐵道乘車證、乘船證ノ受渡簿ヲ以テ隊隊副官ニ請求シ聯隊副官ハ鐵道乘車證、乘船證ニ本人ノ官等級、氏名、年齡及番號等必要ノ記入ヲ爲シ尚鐵道乘車證ノ餘白ニハ斜線ヲ引キ付與スルモノトス

第十六　外出先ニ於テ守ルヘキ規定概ネ左ノ如シ

一　外出ノ際ハ特ニ服裝ヲ正シクシ姿勢動作ヲ嚴確ニシ活潑ナル歩法ヲ用ヒ凜乎侵スヘカラサル威儀ヲ備フルヲ要ス凡ソ聯隊ニ於ケル軍紀ノ張弛、教育ノ精粗ヲ觀察セント欲スルモノハ下士以下ノ營外ニ於ケル

擧動ニ注意スルモノナレハ外出先ニ於ケル各自ノ一擧一動ハ聯隊ノ名譽ヲ代表スルモノト心得常ニ軍人ノ名譽ヲ發揚スルコトニ心掛クヘシ

二　公衆ニ對シテハ穩和謙讓ヲ旨トスヘシ決シテ粗暴野鄙ノ言行アルヘカラス老幼婦人ニ對シテハ道ヲ避ケ座席ヲ讓リ諸事親切ヲ旨トスヘシ總テ公園、劇場其他群集ノ場所ニ在リテハ特ニ容儀ヲ愼ムヘシ

三　街路ハ左側ヲ通行シ人道車馬道ノ別アル所ニ於テハ其區別ヲ守リ數人同行スルトキ狹キ道路ニ在リテハ二人以上廣キ道路ニ在リテモ三人以上併列スヘカラス街路ニ於テハ高聲談話スヘカラス行進中ハ上級古參者ノ步調ニ倣フヘシ雨雪天ニアラスシテ外套ノ

頭巾ヲ冠リ又ハ衣服ノ「カクシ」ニ手ヲ入レ居ル等惰弱ノ行爲アルヘカラス凡ソ活潑ナル動作ハ軍人精神ノ充實ヲ表スルモノナレハ假令用事ナキトキト雖放心徐行スヘカラス況ヤ醉步蹣跚ハ心術ノ野鄙ヲ表スルモノナレハ酒氣ヲ帶フルトキハ一層軍人ノ容儀ヲ正フスルコトニ注意スヘシ

四　禁止セラレタル飲食店遊戲場等ニ立入ルヘカラス又軍人ノ品位ヲ害スルカ如キ不體裁ノ品物ヲ携フヘカラス

五　外出中非常其他兵營ノ近傍ニ火災アルコトヲ知リタルトキハ直ニ歸營スヘシ

六　外出先ニ於テ事故アリシトキハ歸營後直ニ報告ス

ヘシ又差支アリテ定メラレタル時日ニ歸營スルコト能ハサルトキハ其事由ニ從ヒ市(町)(村)長、憲兵、警察官、驛長、船長等ノ證明書若クハ醫師ノ診斷書ヲ受ケ歸營後屆出ヘシ

第十七 入隊日淺クシテ軍人ノ容儀敬禮及市內ノ景況等ニ慣レサル者ニハ適當ノ引率者ヲ付シ外出セシムルモノトス

第八十 公用證、外出證、外泊證ノ樣式左ノ如シ

用紙半紙罫紙

外泊證

何兵第何聯(大)隊第何中隊

官等級　氏　名

何年何月何日午前(後)何時ヨリ何年何月何日午前(後)何時マテ何々ノ爲外泊ヲ許可シタルコトヲ證ス

年　月　日

聯(大)(中)隊長　何　某　認證

第二十三章　衛生

第一　醫務室ハ患者ノ診斷治療、身體檢查、種痘、見習醫官軍醫生衛生部下士以下ノ教育其他衛生ニ關スル一切ノ事務ニ服スル所ニシテ高級醫官之ヲ管理ス

第二　軍醫ハ時々兵舍内外ヲ巡視シ衛生上諸規定ノ服行確實ナルヤ否ニ注意シ又練兵中ニ於ケル兵卒ノ動作ヲ視察シ其健康ニ及ホス狀況ニ注意スヘシ

軍醫ハ又下士以下ノ榮養狀態ニ注意シ兵食ノ良否ヲ調查シ時々養價ヲ算定スヘシ

軍醫ハ炊事場ニ就キ糧食品ノ原料ヲ檢查スルモノトス

軍醫ハ兵舍營倉等ノ換氣ノ良否ニ注意シ又用水ニ付所

要ノ檢査ヲ行ヒ飲用ノ適否ヲ定ムヘシ

軍醫ハ其管理ニ屬スル建物及備付器具器械ノ清潔保存ノ責ニ任ス

第三 軍醫ハ各中隊（聯、大隊本部附下士ノ受診ハ給與ヲ指定セラレタル中隊ニ於テ取扱フ）ノ診斷順序ヲ定メ定時限（急患者ハ此限ニアラス）ヨリ週番下士ノ率ユル患者ヲ順次診斷治療スヘシ

軍醫ハ診斷後引率者ニ診斷區分、傷病等差及病名ヲ告ケ之ヲ患者名簿ニ記入セシメ且必要ノ注意ヲ與フヘシ

第四 診斷ノ結果ニ依リ患者ヲ就業（當日ノ業ニ就カシムルモノ）練兵休（練兵衛兵其他勞働ヲ要スル勤務ヲ休マシムルモノ）乘馬休、入室（休養室ニ入ラシムルモノ）入院ノ五種ニ區分ス

右ノ外寢臺ニ就クコト、外套手套等ヲ用ヒ若クハ脫靴ヲ許スコト又病症ニ依リ食物ノ變更ヲ要スルコトハ其種類、數量、日時等ヲ週番下士ヲシテ患者名簿ニ記入セシメ又食物ノ變更ニ關スルコトハ其隊ヨリ炊事掛ニ通報セシムヘシ

第五 手術其他特ニ治療ヲ要スル者アルトキハ治療室ニ於テ軍醫之ヲ行フ但シ病症ニ依テハ軍醫監督ノ下ニ看護長及上等看護卒ヲシテ治療ヲ分擔セシムルコトヲ得

第六 調劑ハ藥室ニ於テ軍醫之ヲ爲スモノトス但シ劇、毒藥ニアラサルモノハ看護長ヲシテ調劑セシムルコトヲ得

劇、毒藥ハ鑰アル所ニ格納シ其鍵ハ日直軍醫之ヲ保管シ日直軍醫不在ノトキハ日直看護長之ヲ保管スヘシ

藥室ノ鍵ハ日直看護長之ヲ保管スヘシ

第七　醫務室若シ衛戍病院(分院)ニ隣接セル場合ニハ藥室ヲ置カス其調劑ハ當該衛戍病院(分院)ニ於テスルモノトス

第八　入院治療ヲ要セサル輕症患者ニシテ概ネ三日以內ニ快復ノ見込ノ者ハ休養室ニ於テ療養セシム

休養室ノ患者ハ軍醫其治療ニ任シ看護長及上等看護卒ヲシテ看護セシム場合ニ依リ中隊ノ兵卒ヲシテ看護セシムルノ必要アルトキハ軍醫ハ之ヲ其所屬中隊長ニ請求スヘシ

入室患者ノ寢臺ニハ病名、隊號、入室月日、官等級、氏名ヲ記シタル札ヲ掲ケ置クヘシ

第九　軍醫ハ消燈時限後ト雖患者ノ狀況之ヲ要スルトキハ休養室ニ點燈セシムルコトヲ得但シ覺紙ヲ以テ週番大尉ニ通報スヘシ

第十　入室患者ノ守ルヘキ規定概ネ左ノ如シ

一　攝生、服藥、飲食等ハ總テ衛生部員ノ指圖ニ從フヘシ

二　衛生部員ノ許可ナクシテ室外ニ出テ又ハ他人ニ面會スヘカラス

三　室內ニ於テ吟歌、高聲其他喧噪ノ行爲アルヘカラス

四　上級者來室ノトキハ寢臺ニ坐シ受禮者ニ注目シ敬意ヲ表スヘシ但シ病症ニ依リテハ臥牀ノ儘敬意ヲ表スルモ妨ケナシ

第十一　休養室ニハ聯隊長ノ許セル圖書物品ヲ備フル

コトヲ得

第十二　入院セシムヘキ患者アルトキハ前日ニ於テ所屬隊ヨリ人員、官等級、病症ヲ病院ニ前報シ入院當日ノ朝食後ヨリ午前十一時マテノ間（急患者又ハ傳染病者ハ此限ニアラス）ニ所要ノ書類ヲ添ヘ送院スヘシ

前項患者ノ送院ニ關シ運搬ノ方法付添人等ハ主任軍醫之ヲ定ムルモノトス

第十三　醫務室ニ要スル衛生材料ハ所在地衛戍病院（分院）ニ、器具雜品及消耗品ハ經理委員ニ其受領、修理、交換ヲ請求スヘシ

第十四　軍醫退營後臨時ノ患者ヲ處置セシムル爲日直軍醫ヲ置ク但シ最寄部隊ト連合シテ之ヲ置クコトヲ得

聯隊長ハ高級醫官ノ意見ヲ徴シ衛戍病院及軍醫居宅ノ遠近並人員ノ多少ヲ顧慮シ日直ヲ宅直ト爲スコトヲ得然ルトキハ高級醫官ハ宅直軍醫ノ官氏名住所ヲ週番大尉ニ通報シ置クヘシ

第十五　營内居住ノ下士以下ハ恣ニ地方醫ノ診斷ヲ受ケ又ハ私ニ藥物ヲ用フルコトヲ禁ス

第十六　身體檢査ハ概ネ左ノ通行フモノトス但シ中隊附將校一名及特務曹長（本部附下士身體檢査ノ際ハ副官）之ニ立會フモノトス

一　下士以下體格榮養ノ良否、眼病、皮膚病、花柳病、肺結核、靴傷、凍傷等ノ有無ヲ檢スル爲毎月一回以上

二　現役豫備役後備役補充兵役下士以下入隊ノトキ體

力ヲ檢定シ帶患入隊者ノ狀況ヲ知リ及兵役處分ノ資料ニ供スル爲

三　游泳演習、秋季演習、强行軍、雪中行軍等ノ體力上ニ及ホス成績ヲ知ル爲其前後ニ於テ所要人員ニ就キ

四　派遣又ハ分遣ノ適否ヲ鑑別スル爲之ヲ要スルトキ

第十七　衞生上必要アルトキハ出入商人ノ身體檢査ヲ行フコトヲ得

第十八　入隊者アルトキハ種痘ヲ施スヘシ但シ入隊ノ際接種善感後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス

第十九　傳染病ノ豫防ニ關シテハ法規ノ定ムル所ニ從ヒ處置スヘシ

營外居住者ニシテ其家族若クハ近隣ニ傳染病者アルトキハ其旨ヲ屆出テ指圖ヲ受クヘシ

第二十　衞生成績ノ良否ハ各人衞生思想ノ厚薄ニ繫ルコト大ナルモノナレハ屢々衞生講話ヲ行ヒ下士以下ヲシテ衞生ノ必要ナル所以ヲ能ク了解セシムヘシ講話ノ際ハ各中隊ヨリ將校若干名之ニ立會フヘシ

第二十一　衞生上注意スヘキ件概ネ左ノ如シ

一　溝渠下水ハ常ニ疏通ヲ善クシ炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ特ニ清潔ヲ主トスヘシ

二　下水溜、厠及塵捨場等ハ能ク掃除スヘシ不潔物ヲ滿積シ又ハ近傍ヲ汚サヽルコトニ注意スヘシ

三　除隊及入院者ノ被服、寢具等ハ數日間日光ニ曝シ能ク掃除シ病毒汚染ノ恐アルモノハ消毒スヘシ

コトヲ得

第十二　入院セシムヘキ患者アルトキハ前日ニ於テ所屬隊ヨリ人員、官等級、病症ヲ病院ニ前報シ入院當日ノ朝食後ヨリ午前十一時マテノ間（急患者又ハ傳染病者ハ此限ニアラス）ニ所要ノ書類ヲ添ヘ送院スヘシ

前項患者ノ送院ニ關シ運搬ノ方法付添人等ハ主任軍醫之ヲ定ムルモノトス

第十三　醫務室ニ要スル衛生材料ハ所在地衛戍病院（分院）ニ、器具雜品及消耗品ハ經理委員ニ其受領、修理、交換ヲ請求スヘシ

第十四　軍醫退營後臨時ノ患者ヲ處置セシムル爲日直軍醫ヲ置ク但シ最寄部隊ト連合シテ之ヲ置クコトヲ得

聯隊長ハ高級醫官ノ意見ヲ徴シ衛戍病院及軍醫居宅ノ遠近並人員ノ多少ヲ顧慮シ日直ヲ宅直ト爲スコトヲ得然ルトキ高級醫官ハ宅直軍醫ノ官氏名住所ヲ週番大尉ニ通報シ置クヘシ

第十五　營內居住ノ下士以下ハ恣ニ地方醫ノ診斷ヲ受ケ又ハ私ニ藥物ヲ用フルコトヲ禁ス

第十六　身體檢查ハ概ネ左ノ通行フモノトス但シ中隊附將校一名及特務曹長（本部附下士身體檢查ノ際ハ副官）之ニ立會フモノトス

一　下士以下體格榮養ノ良否、眼病、皮膚病、花柳病、肺結核、靴傷、凍傷等ノ有無ヲ檢スル爲每月一回以上

二　現役豫備役後備役補充兵役下士以下入隊ノトキ體

力ヲ檢定シ帶患入隊者ノ狀況ヲ知リ及兵役處分ノ資料ニ供スル爲

三　游泳演習、秋季演習、强行軍、雪中行軍等ノ體力上ニ及ホス成績ヲ知ル爲其前後ニ於テ所要人員ニ就キ

四　派遣又ハ分遣ノ適否ヲ鑑別スル爲之ヲ要スルトキ

第十七　衛生上必要アルトキハ出入商人ノ身體檢査ヲ行フコトヲ得

第十八　入隊者アルトキハ種痘ヲ施スヘシ但シ入隊ノ際接種善感後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス

第十九　傳染病ノ豫防ニ關シテハ法規ノ定ムル所ニ從ヒ處置スヘシ

營外居住者ニシテ其家族若クハ近隣ニ傳染病者アルト

キハ其旨ヲ屆出テ指圖ヲ受クヘシ

第二十　衛生成績ノ良否ハ各人衛生思想ノ厚薄ニ繫ルコト大ナルモノナレハ屢、衛生講話ヲ行ヒ下士以下ヲシテ衛生ノ必要ナル所以ヲ能ク了解セシムヘシ講話ノ際ハ各中隊ヨリ將校若干名之ニ立會フヘシ

第二十一　衛生上注意スヘキ件概ネ左ノ如シ

一　溝渠下水ハ常ニ疏通ヲ善クシ炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ特ニ清潔ヲ主トスヘシ

二　下水溜、厠及塵捨場等ハ能ク掃除スヘシ不潔物ヲ滿積シ又ハ近傍ヲ汚サヽルコトニ注意スヘシ

三　除隊及入院者ノ被服、寢具等ハ數日間日光ニ曝シ能ク掃除シ病毒汚染ノ恐アルモノハ消毒スヘシ

四 夏季又ハ傳染病流行ノ恐アルトキ其他必要ノ場合ニハ適宜ノ場所ニ湯茶ヲ備ヘ生水ノ飲用ヲ禁スヘシ

五 劍術道具、理髪器械ハ常ニ清潔ニシ時々消毒スヘシ

六 鼠、蠅、蚊等ハ傳染病ノ媒介ヲ爲スモノナルヲ以テ其驅除ヲ勉ムヘシ

七 「トラホーム」疥癬、痳疾等ヲ患フル者ノ爲ニ洗面盥ヲ區別シ置クヘシ

八 入浴ヲ怠ラス頭、面、手足ヲ洗ヒ爪ヲ剪リ齒ヲ磨キ總テ身體ヲ清潔ニスヘシ

九 被服、寢具ハ時々日光ニ曝シ能ク塵ヲ掃フヘシ殊ニ夏衣袴、襦袢、袴下、靴下等ハ不潔ナラサル樣注意スヘシ

十 被服ニ塵ノ付キシトキハ室内ニ入ル前能ク掃除スヘシ

十一 過飲過食ヲ愼ミ殊ニ變敗ノ兆アル飲食物未熟ノ果物ヲ避クヘシ練兵其他激働後一時ニ多量ノ飲物ヲ用フヘカラス

十二 茶碗、箸、手拭等ハ各自ノ專用ト爲スヘシ決シテ他人ト貸借シ又ハ混用スヘカラス

十三 入寢後ハ下著、寢具ヲ脱セサル樣注意スヘシ特ニ腹部ヲ露出シテ眠ルヘカラス

第二十四章　馬ノ衞生

第一　獸醫事務室ハ病馬ノ診斷治療、馬ノ檢查、裝蹄、剪毛、見習獸醫官獸醫生蹄鐵工長蹄鐵工卒ノ敎育其他馬ノ衞生ニ關スル一切ノ事務ニ服スル所ニシテ高級獸醫之ヲ管理ス

第二　獸醫ハ各中隊ニ於ケル馬ノ衞生、裝蹄、剪毛ニ注意シ時々厩ヲ巡視シ馬糧納入ノ際其檢查ニ立會ヒ屢、演習ニ出場シ馬ノ狀况ヲ視察シ病馬厩、隔離厩、蹄鐵工場ニ於ケル諸規定ノ服行ヲ確實ナラシメ又其管理ニ屬スル建物、備付器具器械ノ清潔保存ノ責ニ任スルモノトス

第三　獸醫ハ各中隊ノ診斷順序ヲ定メ聯、大隊本部ノ馬ハ

定メラレタル中隊ノモノト共ニ定時限（急病馬ハ此限ニアラス）ヨリ厩週番上等兵ノ率ユル病馬ヲ診斷治療ス

獸醫退營後不時ニ急病馬ヲ生シタルトキハ在營蹄鐵工長又ハ蹄鐵工卒ハ獸醫來營マテ其救急手當ヲ爲スヘシ

第四 獸醫ハ診斷ノ結果ニ依リ病馬ヲ就業（當日ノ業ニ就カシムルモノ）休業（厩ニ於テ休業セシムルモノ）入厩（病馬厩ニ入ラシムルモノ）ノ三種ニ區分ス

第五 獸醫ハ診斷後引率者ニ病名、診斷區分、轉歸、勞働ノ程度及異飼等必要ノ事柄ヲ告ケ之ヲ病馬名簿ニ記入セシムヘシ

第六 調劑ハ藥室ニ於テ獸醫之ヲ爲スヘシ但シ劇、毒藥ニアラサルモノハ蹄鐵工長ヲシテ調劑セシムルコトヲ得

劇、毒藥ハ鑰アル所ニ格納シ其鍵ハ藥室ノ鍵ト共ニ獸醫之ヲ保管シ退營ノ節週番大尉ニ預クヘシ

第七 獸醫ハ其隊內ニ於ケル屠獸、屠肉ノ檢査ヲ行フヘシ

第八 獸醫ハ新馬入隊、傳染病流行其他衞生上必要ノトキハ聯隊長ノ命ヲ受ケ馬ノ檢査ヲ行フヘシ

第九 病馬厩及隔離厩ニ在ル病馬ハ獸醫其治療ニ任シ蹄鐵工長及蹄鐵工卒ヲシテ之カ看護ヲ爲サシムヘシ但シ工卒不足ノトキハ兵卒ヲ以テ之ニ代ユルコトヲ得

前項工卒又ハ兵卒ノ人員ハ馬數ニ應シ獸醫之ヲ定メ病馬所屬ノ中隊長ニ請求スルモノトス

第十 獸醫ハ蹄鐵工長ヲシテ、中隊長ハ蹄鐵工卒ヲシテ手入時間ニ於テ馬ノ狀況ヲ巡視セシメ特ニ護蹄ニ注意シ要スレハ釘締ヲ爲サシムヘシ

第十一　獸醫ノ在ラサル部隊ニ於テ病馬ノ診斷、治療、剔毛、去勢又ハ裝蹄ヲ要スルトキハ獸醫附屬ノ最寄部隊ニ依賴スルモノトス若シ依賴スルコト能ハサルトキハ地方獸醫蹄鐵工ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

前項部隊ノ馬ノ衞生業務ハ其隊ノ乘馬委員之ヲ擔當スルモノトス

第十二　傳染病ノ豫防ニ關シテハ法規ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處置スヘシ

第十三　軍馬ハ活動兵器ナリ之ヲ強健ニ保育シ傷痍疾病ヲ豫防スルコト必要ナルヲ以テ屢、講話ヲ行ヒ下士以下ヲシテ馬ノ衞生ノ重ンスヘキ所以ヲ能ク了解セシムヘシ此場合ニ在リテハ各中隊ヨリ將校若干名之ニ立會

フヘシ

第十四　馬ノ衞生ニ付注意スヘキ件概ネ左ノ如シ

一　馬ノ勞働ハ其榮養ノ程度ニ應セサルヘカラス又飼方ハ馬ノ大小強弱ト勞働ノ狀態及土地ノ狀況ニ應シ其數量品種ヲ斟酌スルヲ要ス然レトモ複雜ナル異飼ハ成ルヘク之ヲ避クヘシ干草ハ馬ノ榮養上缺クヘカラサルモノナレハ成ルヘク多ク之ヲ與フヘシ

二　馬ハ堅肥（カタゴヘ）ニシテ毛ニ光澤アルヲ以テ飼方ト勞働トノ調和ヲ得タル徵候トス過度ノ肥瘠ハ共ニ持久力ヲ減シ充分ナル勞働ニ堪ヘサルモノトス

三　馬ハ毎日適宜ノ勞働ニ服セシムルヲ要ス休日ニテモ若干時間運動ヲ行フヲ良トス病馬ト雖病狀ニ依リ

第十一　獸醫ノ在ラサル部隊ニ於テ病馬ノ診斷、治療、剔毛、去勢又ハ裝蹄ヲ要スルトキハ獸醫附屬ノ最寄部隊ニ依頼スルモノトス若シ依頼スルコト能ハサルトキハ地方獸醫蹄鐵工ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

前項部隊ノ馬ノ衞生業務ハ其隊ノ乘馬委員之ヲ擔當スルモノトス

第十二　傳染病ノ豫防ニ關シテハ法規ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處置スヘシ

第十三　軍馬ハ活動兵器ナリ之ヲ强健ニ保育シ傷痍疾病ヲ豫防スルコト必要ナルヲ以テ屢〻講話ヲ行ヒ下士以下ヲシテ馬ノ衞生ノ重ンスヘキ所以ヲ能ク了解セシムヘシ此場合ニ在リテハ各中隊ヨリ將校若干名之ニ立會フヘシ

第十四　馬ノ衞生ニ付注意スヘキ件概ネ左ノ如シ

一　馬ノ勞働ハ其榮養ノ程度ニ應セサルヘカラス又飼方ハ馬ノ大小强弱ト勞働ノ狀態及土地ノ狀況ニ應シ其數量品種ヲ斟酌スルヲ要ス然レトモ複雜ナル異飼ハ成ルヘク之ヲ避クヘシ干草ハ馬ノ榮養上缺クヘカラサルモノナレハ成ルヘク多ク之ヲ與フヘシ

二　馬ハ堅肥（カタゴヘ）ニシテ毛ニ光澤アルヲ以テ飼方ト勞働トノ調和ヲ得タル徵候トス過度ノ肥瘠ハ共ニ持久力ヲ減シ充分ナル勞働ニ堪ヘサルモノトス

三　馬ハ每日適宜ノ勞働ニ服セシムルヲ要ス休日ニテモ若干時間運動ヲ行フヲ良トス病馬ト雖病狀ニ依リ